

遠州灘海浜公園（篠原地区）

基本計画

令和6年7月

静岡県

1章 はじめに	1
1.1 背景	1
1.2 遠州灘海浜公園の概要	2
1.3 計画地	3
1.4 基本計画策定までの経緯	4
2章 現状と課題の整理	5
2.1 公園を取り巻く状況	5
(1) 上位・関連計画における位置づけ	5
(2) 広域的な状況	7
(3) 計画地の状況	9
(4) 県民意向	13
(5) 社会動向	19
(6) 官民連携に関する事業者意向	23
2.2 課題の整理	27
3章 公園整備プランの検討	29
3.1 公園整備プランの比較検討	29
3.2 導入機能の需要調査	31
4章 コンセプト・基本方針	32
5章 公園整備計画	33
5.1 ゾーニング	33
5.2 施設配置計画	35
(1) エントランスゾーン	36
(2) スポーツ文化ゾーン	37
(3) ベースボールゾーン	38
(4) 緑のリフレッシュゾーン	39
(5) 多世代型スポーツゾーン	40
5.3 動線計画	41
(1) 動線	41
(2) 駐車場	42
5.4 基本計画図	44

6 章	メイン球場の整備方針	45
6.1	野球場の規模・構造等の考え方	45
6.2	メイン球場候補案	47
6.3	メイン球場の比較検討	48
(1)	一次選定	48
(2)	二次選定	49
(3)	三次選定	51
6.4	メイン球場の今後の方向性	52
7 章	官民連携による事業手法等の検討	53
7.1	事業手法・スキームの検討	53
(1)	事業手法の検討	53
(2)	スキームの検討	53
7.2	想定する整備パターン	56
(1)	整備パターンの比較検討	56
(2)	総合評価	56
7.3	今後の事業の進め方	58

1章 はじめに

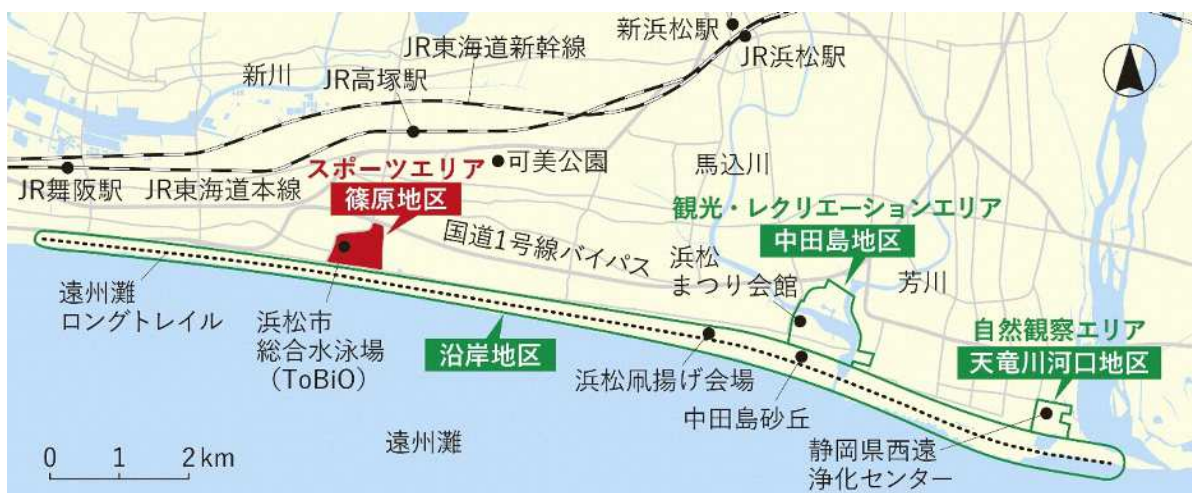
1.1 背景

遠州灘海浜公園（以降、「本公園」という。）は、浜松市沿岸部に位置し、中田島砂丘や松林などの浜松市を代表する景観を有する公園です。

本公園は、天竜川河口地区、中田島地区、篠原地区、沿岸地区といった地区で構成され、各地区は東西に広がっています。

これまで球技場や水泳場等のスポーツ施設や、海岸防災林と一体となった海辺の環境に親しむレクリエーション活動の拠点として公園整備を進めてきました。

篠原地区（以降、「計画地」という。）については、東日本大震災を契機に当公園を含む沿岸部にて防潮堤の整備が進み、地区をとりまく状況が大きく変化したことをきっかけに、スポーツ等の活動拠点となる公園の整備に向けて、公園の基本方針と導入が望ましい施設等について検討を進めてきました。



■ 篠原地区を西側から臨む（下写真）

篠原地区内には、既に浜松市により総合水泳場(ToBiO)が整備されており、その他は玉葱畑等が広がる自然豊かな景色が広がっています。

また、沿岸部は、アカウミガメの産卵地としても有名な国内有数の長大な砂浜が広がっています。



1.2 遠州灘海浜公園の概要

各地区は、豊かな自然環境や環境教育、スポーツ等の活動ができる機能があり、広域的な公園として利用されています。

本公園を構成する地区の概要は次のとおりです。

図表 1-1 遠州灘海浜公園の地区の概要

篠原地区	スポーツエリア <ul style="list-style-type: none">静岡県浜松市中央区にあり、浜松駅から約 6.5km の距離に位置し、開設面積は 3.5ha で、約 32.7ha の未開設区域があります。地区内には、浜松市総合水泳場（ToBiO）が立地しています。
中田島地区	観光・レクリエーションエリア <ul style="list-style-type: none">馬込川の右岸河口部に位置し、浜松駅から約 4.0km の距離に位置し、開設面積は 60.1ha（県営 20.3ha、市営 39.8ha）で、当地区は浜松駅から最も近く、主要なエントランスとなっています。地区内には、浜松まつりの浜松まつり会館や、公園内には球技場、大型遊具施設、多目的芝生広場などの施設があり、県民にとってのレクリエーションの場となっています。公園は年間 80 万人を超える観光客で賑わっています。
天竜川河口地区	自然観察エリア <ul style="list-style-type: none">天竜川右岸河口部にあり、浜松駅から約 7.0km の距離に位置し、西遠浄化センターの屋上に、2.5ha の多目的広場があり、県民の憩いの場となっています。遠州灘の原風景である貴重な自然環境（湿地、樹林帯）が残されており、動植物の観察の場となっています。
沿岸地区	遠州灘ロングトレイル <ul style="list-style-type: none">砂浜海岸や海岸防災林、中田島砂丘から構成され、雄大な遠州灘の景観が形成されています。

1.4 基本計画策定までの経緯

平成 28 年 5 月に整備の基本的な考え方を整理した「遠州灘海浜公園基本構想」を策定しました。

令和元年から基本計画の検討を開始し、県民やスポーツ関係者から意見聴取を行うとともに複数の公園整備プランを作成しました。令和 3 年度にはアフターコロナの公園のあり方、令和 4 年度には環境影響予測調査とともに公園整備プランの絞り込みの実施、令和 5 年度には官民連携導入可能性調査の実施等の調査検討を重ね、基本計画として取りまとめました。

図表 1-3 基本計画策定までの経緯

昭和 37 年 12 月	都市計画決定
平成 28 年 5 月	遠州灘海浜公園基本構想を策定
令和元 年 3 月	基本計画の検討を開始 県民やスポーツ関係者等から意見聴取を行い、 複数の公園整備プランを作成
令和 3 年度	「令和 3 年度調査検討業務委託」の実施※ (事例調査により、アフターコロナの公園のあり方を検討)
令和 4 年度	「令和 4 年度環境影響予測調査業務委託」の実施※ (現地調査及び文献調査等により、孵化したアカウミガメの 子ガメが人工光の影響を受けることを確認)
令和 5 年 3 月	公園整備プランの選定 (プラン 3 「みんなが楽しめる健康・スポーツ公園」)
令和 5 年度	「令和 5 年度官民連携導入可能性調査業務委託」の実施※ (詳細な需要調査を行った上で、野球場タイプの絞り込みや 事業手法の検討等を実施)
令和 6 年 4 月	パブリックコメントの実施
令和 6 年 7 月	公園基本計画の策定

※詳細は各業務委託成果品参照

2章 現状と課題の整理

2.1 公園を取り巻く状況

(1) 上位・関連計画における位置づけ

上位・関連計画のうち、本公園や本公園に関連する箇所について、図 2-1 に整理しました。これら計画と整合を図り、計画を策定します。

図表 2-1 上位・関連計画

計画等	概要
遠州灘海浜公園 基本構想 (平成 28 年 5 月)	篠原地区を防災・スポーツエリアとして位置づけ、野球場や屋内運動場を整備する。 防潮堤を活かし遠州灘海浜公園の 3 拠点を結ぶ「遠州灘ロングトレイル」を整備する。
静岡県総合計画 (令和 4 年 3 月)	【政策 11”ふじのくに”の魅力の向上と発信】 ①スポーツによる健康づくりの推進 遠州灘海浜公園（篠原地区）において、新たなスポーツの拠点の創出を目指し、野球場を核とする公園の整備に向けた検討を進める。 【地域の目指す姿（西部地域）】 県民がレクリエーションを楽しみ、自然と親しむ場を提供するため、遠州灘海浜公園において、レクリエーション拠点、自然環境の学習の場としての公園運営に取り組む。
浜松市総合計画 (平成 26 年 12 月)	【分野別基本政策 文化・生涯学習】 感動のある生活、歴史・文化・スポーツによる豊かさの創造 スポーツ施設では、民間活力を活かした施設の複合化などにより、利用者の利便性を高める。 【分野別基本政策 安全・安心・快適】 市民が集う活力ある都市づくり 防災機能が充実した総合運動公園の整備を進め、だれもが安全に安心して利用できる憩いの場を提供。
浜松市都市計画 マスタープラン (令和 3 年 3 月)	【方針 都市の骨格となるみどりの適切な保全・活用】 生態系の保全や健全な水循環の確保が図られるようみどりを保全したうえで、観光・レクリエーション機能を有する資源として、ビーチ・マリンスポーツなど官民連携による多様な活用を図る。

計画等	概要
浜松市 緑の基本計画 (令和3年3月)	【施策の展開】 遠州灘海浜公園篠原地区は、遠州灘海浜公園基本構想に基づき、県西部地域の拠点となる野球場などのスポーツ施設を主体とする整備を推進。
静岡県スポーツ 推進計画 (令和5年1月)	【基本方針1 スポーツによる健康づくりの推進】 柱2「スポーツ施設の整備と利活用の促進」 県民が主体的にスポーツに参加する環境基盤としてスポーツ活動を支える人材の育成と安全にスポーツ活動を行うことができるスポーツ施設等の場の確保・提供を目指す。
第2期浜松市 スポーツ推進計画 (平成31年3月)	「スポーツ文化都市 浜松」の実現を目指し、「【するスポーツ】人を元気にするスポーツ」、「【みるスポーツ】まちを元気にするスポーツ」、「【支えるスポーツ】活力を生みだすスポーツ」を推進する。
浜松市 地域防災計画 (令和5年4月)	【災害予防計画 第21節 災害に強いまちづくり】 遠州灘海浜公園（市営・県営） 救援救護活動の前線基地や復旧のための資器材などの中継基地となる地域防災拠点公園。 【緊急避難場所(津波避難場所)】 浜松市総合水泳場（ToBiO）
ふじのくに 公共資産最適管理 基本方針 (静岡県公共施設等 総合管理計画) (令和5年3月)	【管理目標】 2049（令和31年）年度末までに、県有施設の総量（総延床面積）を15%削減（令和元年度比）する。 【民間活力の活用方針】 指定管理者制度、PPP/PFIなど、民間資金・能力を活用する多様な事業手法について検討、導入してきている。今後、公共施設等の更新、運営を持続的に行っていくためには、行政による対応には限界があることを踏まえ、民間や県民の知恵、ノウハウ、資金等を最大限活用していく。

(2) 広域的な状況

① 立地特性

計画地は、静岡県西部の政令指定都市である浜松市に位置し、東には天竜川が流れ、西には浜名湖があり、南には広大な砂丘を持つ遠州灘に面しています。

② 人口

県西部の人口は約 128 万人*であり、静岡県全体の人口の約 363 万人*のうちの約 35%を占めます。

※令和 2 年度国勢調査（県西部は、浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、菊川市、森町の合計値）

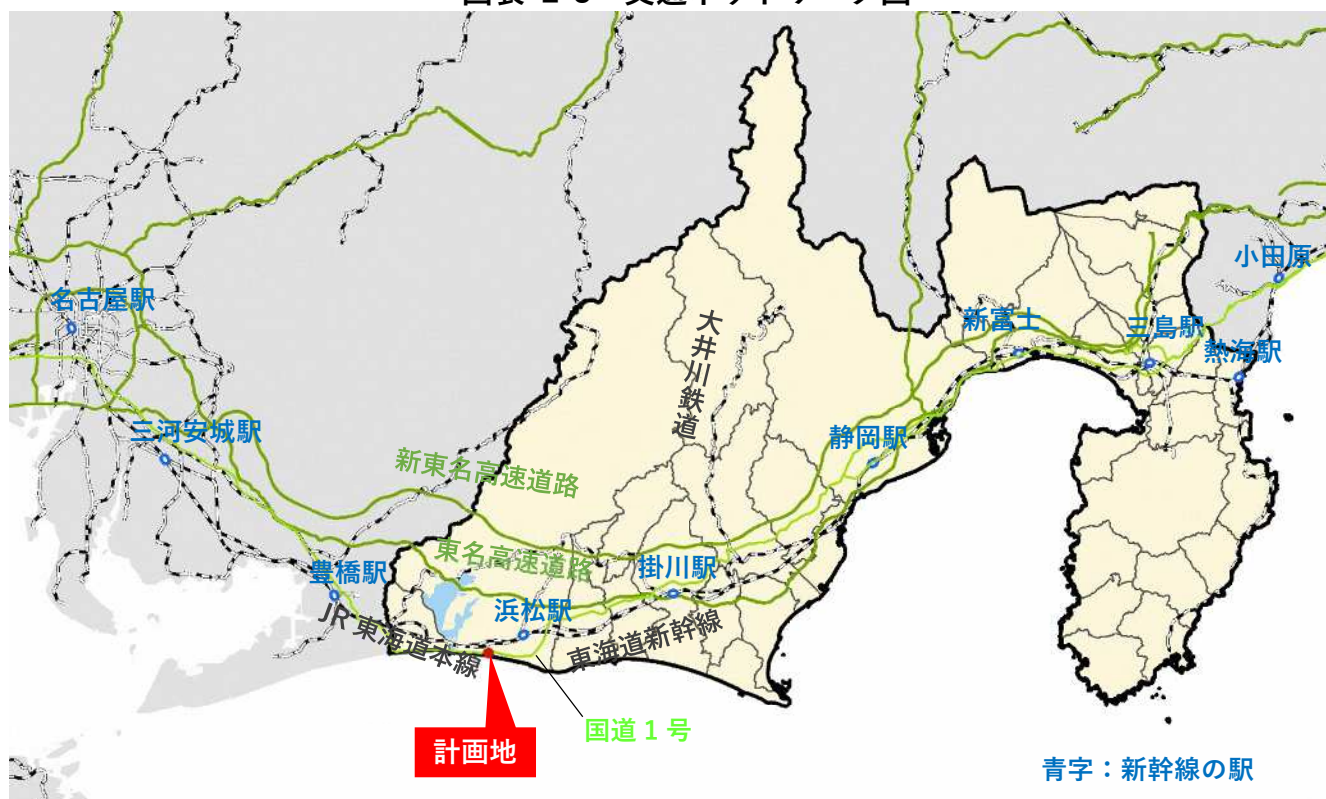
図表 2-2 広域図



③ 交通ネットワーク

浜松市の海沿いの地域には、JR 東海道本線、東海道新幹線が通っています。さらに、新東名高速道路、東名高速道路、国道 1 号バイパスにより、県内だけでなく、東海エリアの主要都市へのアクセスが良好です。

図表 2-3 交通ネットワーク図



④ 施設分布

静岡県内の高校野球の大会^{*}の会場に使用される球場は、立地や収容人員、交通アクセス等を総合的に判断し、10 会場が選定されています。そのうち、県営球場は、愛鷹広域公園にある愛鷹球場（以降、「愛鷹球場」という。）と草薙総合運動場にある草薙球場（以降、「草薙球場」という。）の2球場で県西部には県営球場がありません。

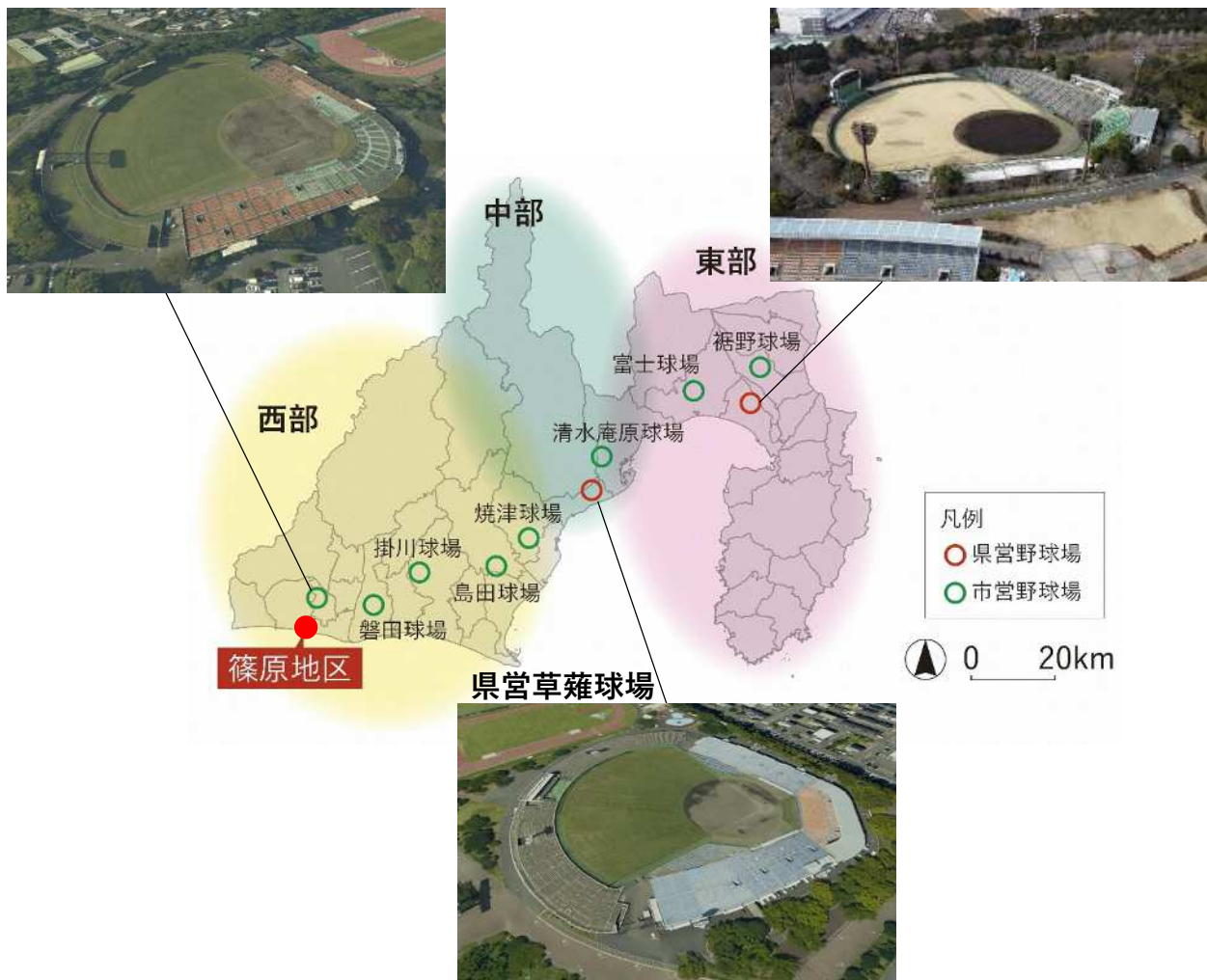
計画地周辺における高校野球の会場は、四ツ池公園の浜松市営球場（以降、「浜松球場」という。）があります。浜松球場では、プロ野球をはじめ、社会人野球、高校野球等の各種大会が開催されており、稼働率は非常に高い状況です。一方で、浜松球場は施設の老朽化が進行しており、浜松市の四ツ池公園運動施設の整備方針では、四ツ池公園内の現野球場の機能は、遠州灘海浜公園篠原地区の野球場で担うこととし、市が整備する野球場は、既存の野球場の機能向上も含め、高校野球の大会が開催できる規模とするとの方向性が示されています。

※公益財団法人日本高等学校野球連盟が主催する野球大会

図表 2-4 県内の高校野球の会場として使用される野球場の配置状況

浜松市営球場

県営愛鷹球場



(3) 計画地の状況

① 地形

計画地内の標高は、概ね 0m～3.3m（浜松市総合水泳場（ToBiO）は 4.6m）であり、ほぼ平坦な地形です。また、計画地内に、沿岸部の本堤が破堤した場合の備えとして、過去に築造された二線堤が残っており、それらの標高は 3m 程度となっています。

② 気象

遠州灘に面する沿岸部では平均気温は 15～16℃と比較的温暖であり、年間を通じて過ごしやすい気候といえます。

遠州灘に面した沿岸部では、冬期の季節風が強い一方で、春から初夏にかけては一般に風は弱くなっています。

③ 動植物

遠州灘海岸沿いの砂丘地は、クロマツ林が広がり、ハマエンドウ、ハマヒルガオなどの海浜植物が見られます。また、計画地は、畑雑草群落が大半を占め、他には、防潮堤側にヨシクラスと造成地、北側に水田雑草群落等があります。

計画地に接する海岸を含んだ浜松市中央区松島町から舞阪町までの海岸と、そこに産卵のため上陸するアカウミガメは市指定天然記念物「浜松海岸のアカウミガメ及びその産卵地」と指定されています。

図表 2-5 計画地の現況

浜松市総合水泳場（ToBiO）北側



図表 2-6 植生図



■	400100	シイ・カシ二次林
■	470400	ヨシクラス
■	540300	クロマツ植林
■	570300	畑雑草群落
■	570400	水田雑草群落
■	580300	工場地帯
■	580400	造成地
■	580600	開放水域

出典：自然環境調査 Web-GIS（植生調査(1/2.5 万) 第 6-7 回 植生図)

図表 2-7 海浜植物



ハマエンドウ



ハマヒルガオ

④ 土地利用

計画地は、市街化調整区域であり、海浜部と一体的に風致地区(第1種)に指定されています。また、広域公園として都市計画決定されています。

計画地内には浜松市総合水泳場 (ToBiO) があり、その他の場所は玉葱が栽培される畑地と耕作放棄地が目立つ状況で住宅、太陽光発電施設、工場等の施設が点在しています。

また、計画地の南東部の一角が産業廃棄物の最終処分場となっています。

図表 2-8 都市計画公園区域



出典：浜松都市計画図

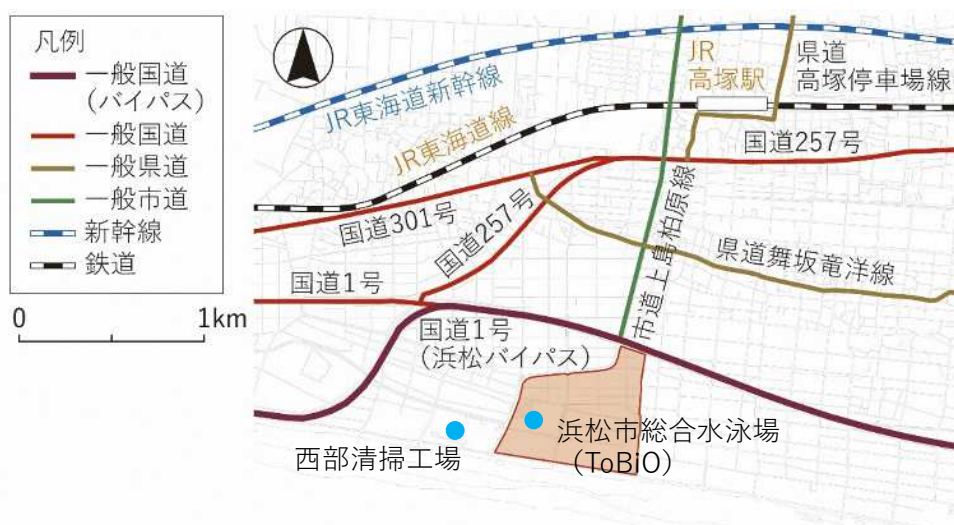
⑤ 交通アクセス

計画地への公共交通手段には、計画地の北部の距離約 1.7km(徒歩 25 分程度)の位置に東海道本線の JR 高塚駅があります。

また、路線バスについては、JR 浜松駅北口バスターミナルから終点「浜松市総合水泳場」となるバス路線があり、平休日ともに1時間に1本程度の運行で、JR 浜松駅からの所要時間は 30 分程度です。浜松市総合水泳場での大会開催時等には、臨時バスが運行されています。

周辺の道路状況は、計画地の北西部と国道 1 号バイパスと隣接し、高塚駅方面から市道上島柏原線がつながっています。

図表 2-9 周辺の交通状況

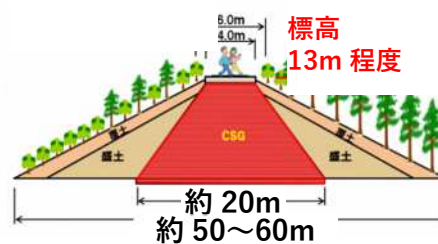


⑥ 周辺施設

計画地西側に浜松市西部清掃工場（以降、「西部清掃工場」という）があり、浜松市総合水泳場（ToBiO）の熱源は西部清掃工場から送られてくる蒸気を利用しています。西部清掃工場の敷地内の更新用地は、浜松市総合水泳場での大会開催時等に臨時駐車場として利用されています。また、計画地東側には、三方原病院、南側には篠原東排水機場があります。

南側の遠州灘海岸沿いに標高 13m 程度の浜松市沿岸域防潮堤があります。

図表 2-10 防潮堤横断面



⑦ 既存施設

計画地内の既設の市営の浜松市総合水泳場（ToBiO）は、国際公認規格のメインプール、飛び込みプールを有し、日本選手権水泳競技大会やシンクロジャパンオープンなどの大会が開催されています。それらに付帯して、屋外レジャープールや温浴施設、トレーニングジムなどがあり、多様なスポーツ活動に年間約 33 万人が利用しています。また、現浜松市中央区に生まれ、“フジヤマのトビウオ”と言われた古橋廣之進氏の水泳界及びスポーツ界での功績をまとめた「日本水泳の歴史資料室」があります。

図表 2-11 周辺施設及び既存施設



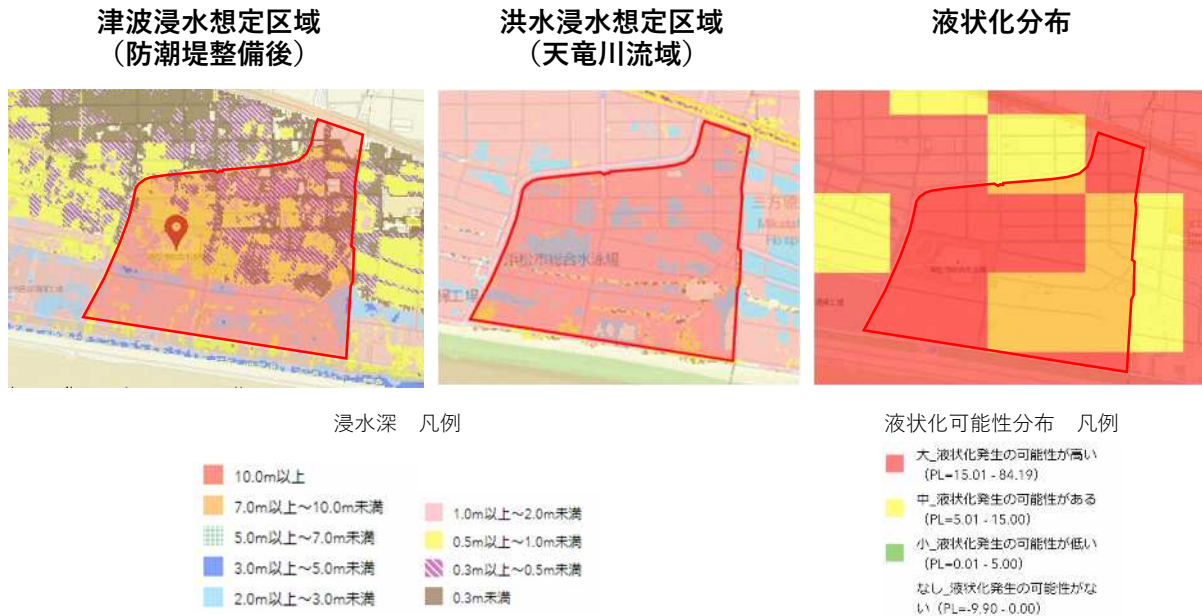
出典：国土地理院地図をベースマップとし作成、浜松市西部清掃工場：浜松市 HP

⑧ 自然災害

計画地は、水害（津波、洪水）による浸水、液状化可能性の高い区域に含まれています。水害に関しては、津波浸水想定区域（レベル2）の浸水深 3.0m 未満の区域や洪水浸水想定区域（想定最大規模）の浸水深 3.0m 未満の区域があり、浜松市では、浜松市総合水泳場を緊急避難場所（津波避難場所）に指定しています。

また、南海トラフ地震を想定した液状化発生の可能性が高い区域があります。

図表 2-12 災害想定



出典：浜松市防災マップ
Esri Japan, Esri, HERE, Garmin, INCREMENT P, NGA, USGS
Powered by Esri

⑨ 景観

計画地に隣接する防潮堤は、海岸防災林とともに地域の新たなランドマークとなっており、防潮堤の天端から臨む遠州灘は白砂青松の砂丘地帯が続き、青い海と一体となった美しい景観を形成しています。

図表 2-13 防潮堤



図表 2-14 遠州灘海岸



(4) 県民意向

県民やスポーツ関係者等の意向を把握するために、令和元年よりアンケートやヒアリングを行ってきました。県民の意向把握については図表 2-15 の通りです。ここでは意見の概要を整理します。

図表 2-15 県民意向の把握

分類	方法	概要
県民意見	ウェブアンケート (R1年7月)	・民間調査会社に登録県内モニターの方を対象に公園と野球場に関してアンケート (1,600人(うち西部地域800人、中・東部地域:800人))
	まちかどトーク (R1年7~9月)	・県内西部地域内の商業施設等で、パネル展示等を開催し、公園と野球場に関して意見を聞き取り(実施回数:18回、1,228人)
	出前講座 (R1年7~8月)	・出前講座を開催し、整備状況の説明と意見交換を行い、意見を聞き取り(実施回数:2回)
	県ホームページによる意見募集 (R1年7月~)	・県ホームページにて計画策定作業の進捗状況等をお知らせするとともに、意見募集
野球・ソフトボール関係者	団体ヒアリング (R1年8~9月)	・野球・ソフトボール関係団体へのヒアリング(12団体)
	チームアンケート (R1年8~10月)	・県西部地域の野球・ソフトボールチームにアンケート(353チーム)
	静岡県野球協議会ヒアリング (R1~R5年)	・静岡県野球協議会や協議会構成団体にヒアリング
その他のスポーツ関係者	スポーツ関係団体ヒアリング (R1年8~10月)	・スポーツ関係団体へのヒアリング(2団体)
	ToBiO利用者インタビュー (R1年8月)	・浜松市総合水泳場(ToBiO)の利用者にインタビュー(176人)
	遠州灘海岸利用者インタビュー (R1年8月)	・海岸利用者からインタビュー(33人)
その他	浜松市及び市内団体の要望	・浜松市や市内団体から篠原地区の整備及びスポーツ施設についての要望が提出された

① 県民意向

県民意見および野球・ソフトボール関係者、その他のスポーツ関係者による公園全体と野球場に関する主な意見を分類ごとに整理しました。

● 公園全体に関する意見の概要

公園全体に関する意見として、アスレチックやクライミング、デイキャンプといった様々なレクリエーション等が望まれる一方で、交通アクセスや整備上の留意点などへの意見がありました。

図表 2-16 意見の概要（公園全体）

分類	主な意見	出典
導入機能・施設 (レクリエーションやニュースポーツ、利用方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・ (やりたいレクリエーションやニュースポーツについての回答) アスレチック 56%、クライミング 45%、グラウンドゴルフ 26%であった。 ・ (どのような利用がしたいかについての回答) バーベキュー 59%、ピクニック 45%、デイキャンプ 37%、花の観賞 34%であった。 	ウェブアンケート
	<ul style="list-style-type: none"> ・ アスレチックやデイキャンプ、カフェなど、公園でのびのびとゆっくりした時間を過ごしたいという意見が多くあった。 	まちかどトーク
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビーチ、マリンスポーツの利用促進のための施設としてシャワー、ロッカー、更衣室、休憩施設の整備を望む声が多くあった。 	スポーツ関係団体ヒアリング
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整備されると良い施設について、多目的の芝生広場やカフェ、アスレチックが欲しいといった意見があった。 	ToBiO 利用者インタビュー
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビーチ・マリンスポーツにも利用できるシャワーや更衣室、カフェなどを望む意見が多くあった。 	海岸利用者インタビュー
	交通アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通アクセスについて、自家用車での来場を望む方が多かったが、一方公共交通機関の充実を望む方も存在した。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通手段について、9割近くの方が自家用車を使用しており、球場等の施設整備による駐車場の不足や、交通渋滞を心配する意見があった。 		ToBiO 利用者インタビュー
その他整備上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強風、津波、渋滞、騒音など、安全安心に関して様々な不安を持つ方が存在した。 	まちかどトーク
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災や避難場所への活用、地域の活性化など地域のために有用な公園整備を望まれる意見があった。 	出前講座
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老若男女全ての人が楽しめる、賑わいのある公園整備が期待されている。 	県ホームページによる意見募集

● 野球場に関する意見の概要

野球場に関する意見として、一般の練習や公式試合の場所として利用したいという意見や、プロ野球が観戦できる大規模球場が欲しいという意見がありました。

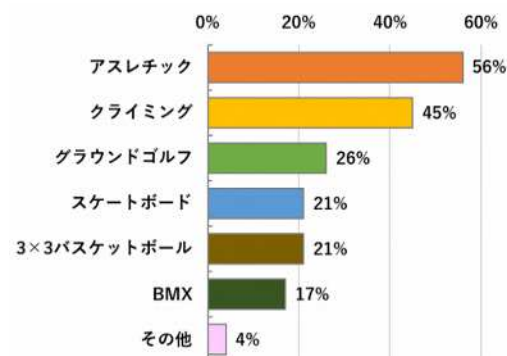
図表 2-17 意見の概要（野球場）

分類	主な意見	出典
利用 ニーズ	・ 県西部地域では、野球場の数が不足しており、新たな野球場の整備を求める意見が多くあった。	野球・ソフトボール関係団体ヒアリング
	・ 浜松球場は土日祝日の予約が取れないため、他球場を利用している。整備予定の球場利用については利用料金次第。	静岡県野球協議会ヒアリング
観戦 ニーズ	・ 整備予定の野球場で「野球観戦がしたい」が約 60%であった。 ・ どんな試合を観戦したいかについて、「プロ野球のみ」約 47%、「プロ野球とあわせてアマチュア野球や少年野球も観戦したい」約 31%であった。	ウェブアンケート
	・ 整備予定の野球場で、野球観戦をしたいという意見が多かった。 ・ 観戦したい試合の種類は、「プロ野球」から「アマチュア野球」、「少年野球」まで様々であった。	まちかどトーク
	・ 整備予定の野球場で「プロ野球を観たい」が約 61%であった。	野球・ソフトボールチームアンケート
規模	・ 規模について、「プロ野球が開催できる大型スタンド球場」が約 67%であった。	ウェブアンケート
	・ 規模について、1 千人規模から 2.5 万人規模まで、様々な意見があった。	野球・ソフトボール関係団体ヒアリング
	・ 観客席はバックネット裏 300～500 席程度あればよい。	静岡県野球協議会ヒアリング
付帯 施設	・ 導入施設・機能について、ほぼ全ての団体から、十分な駐車スペースの確保が必要との意見があった。	野球・ソフトボール関係団体ヒアリング
	・ 付帯施設について、屋内運動場や広い駐車場の整備を望む声が多くあった。	野球・ソフトボールチームアンケート
	・ ドーム球場でも屋内運動場はほしい。雨天練習が可能なところであれば合宿が可能。	静岡県野球協議会ヒアリング
その他 整備上の 留意点	・ プロ野球の開催出来る大きな野球場の整備が期待される一方で、環境影響や費用対効果、浜松球場との競合等に配慮するという意見があった。	県ホームページによる意見募集
	・ 利用料金が高くなると、一般チームが利用しづらくなることを懸念する意見があった。	野球・ソフトボール関係団体ヒアリング
	・ プロ野球の開催から少年野球などみんなが利用できるものが良いなど、様々な意見があった。	海岸利用者インタビュー

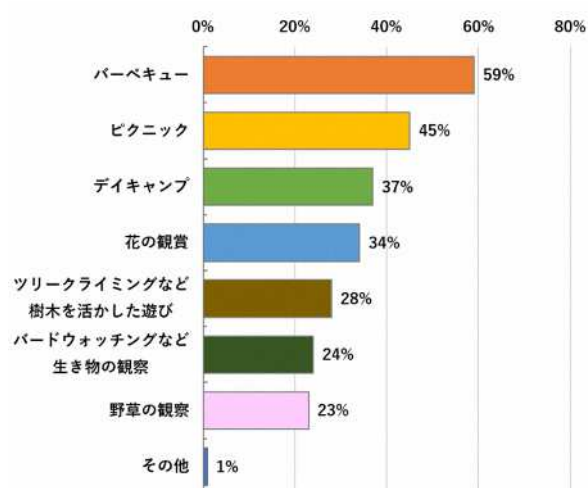
図表 2-18 ウェブアンケートの主な結果

・公園について

問：どんなレクリエーションや
ニュースポーツがしたい？

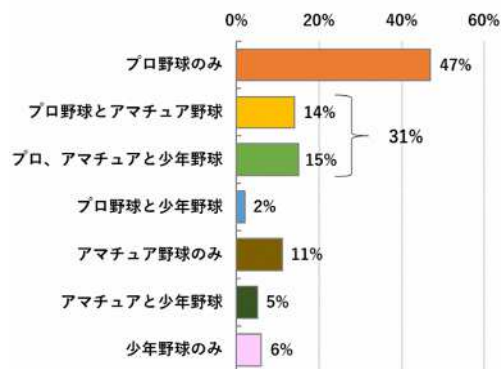


問：どの様な利用がしたい？
※複数回答

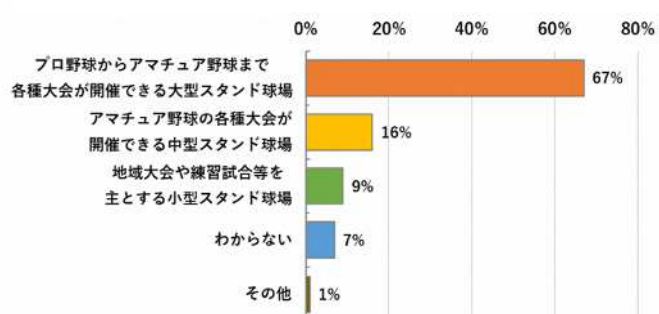


・野球場について

問：どんな試合を観戦したい？



問：野球場の規模はどのくらいが良い？



② 浜松市及び市内団体の要望

基本構想策定以降も、浜松市や地元団体等から整備の早期事業化や野球場の規模は1万人から2.2万人まで、構造はドーム球場が良いといった様々な要望が提出されています。(図表 2-19、図表 2-20 参照)

図表 2-19 浜松市の要望

年度	浜松市
H28～R2 (毎年度)	遠州灘海浜公園（篠原地区）の整備について ・ 県西部地域の拠点となる県営野球場などのスポーツ施設の設置を主体とする、公園整備の早期事業化 (H28.9 H29.8 H30.8 R1.9 R2.9)
R3・R4	遠州灘海浜公園（篠原地区）の整備について ・ 県西部地域の拠点にふさわしいプロ野球開催が可能な野球場を主体とする公園整備 (R3.8 R4.8)
R5	遠州灘海浜公園（篠原地区）の整備について ・ 県西部地域の拠点となるサブ球場、室内練習場等を併設したプロ野球開催が可能な2.2万人規模かつ、周辺の自然環境に配慮し、野球以外の幅広い大型イベントの開催が可能となる全天候型ドーム構造の野球場整備 (R5.9)

※基本構想策定（平成28年5月30日）以降の状況

図表 2-20 地元団体等の要望

年度	地元団体等
H28	<p>【浜松商工会議所】 ・ 遠州灘海浜公園（篠原地区）への野球場建設早期実現 (H28.10)</p> <p>【篠原地区地域活性化促進協議会】 ・ 遠州灘海浜公園（篠原地区）への野球場整備について (H28.7)</p> <p>【浜松市西区自治会連合会】 ・ 3万人規模のプロ野球球団にとっても魅力的な野球場の整備計画の推進 (H28.7)</p> <p>【県野球連盟】 ・ 利用しやすい県営野球場の早期建設着手 (H28.8)</p> <p>【新野球場と浜松百年の計を考える市民有志の会】 ・ 浜松にしかない個性と魅力ある公園の整備（街中にプロ野球を開催可能なドーム球場を建設、ニュースポーツの活動拠点の建設） (H28.8)</p>
H30	<p>【浜松商工会議所】 ・ 遠州灘海浜公園（篠原地区）への野球場建設早期実現 (H30.10)</p> <p>【新野球場と浜松百年の計を考える市民有志の会】 ・ 浜松にしかない個性と魅力ある公園の整備（クローバー型野球場（中型3面と屋内雨天練習場で構成）の整備、総合スポーツパークとして整備） (H30.11)</p>

年度	地元団体等
R 1	<p>【県野球協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収容人員 1 万人程度の中規模の野球場 ・ 補助球場 2 面と雨天練習場を併設 ・ 市営球場存続及び県の新設野球場の「1 プラス 1」の実現 (R1.11)
R 2	<p>【サンクチュアリ NPO】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浜松市篠原地区に県が新設する野球場について ・ 多様性豊かな海岸環境と貴重な生物の生命を損なうことがないように、野球場建設を含む公園計画案の見直しを強く望む。 ・ 生態系を含む自然環境を守ることを最重要課題として取り組むこと。(R2.4) <p>【浜松商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠州灘海浜公園（篠原地区）への野球場建設早期実現 (R2.9)
R 4	<p>【浜松商工会議所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロ野球が開催できる 2.2 万人以上収容可能な規模 ・ 全天候型のドームタイプ <p>【新野球場建設促進期成同盟会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロ野球が開催できる 2.2 万人規模 ・ 全天候型のドーム (R4.12) <p>【県野球協議会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収容人員 1.5 万人の野球場 ・ 補助球場 2 面と雨天練習場を併設 (R 4 .9.2)
R 5	<p>【新野球場建設促進期成同盟会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境に配慮した多目的ドーム型スタジアム ・ プロ野球が開催できる 2.2 万人規模 (R5.10) <p>【サンクチュアリ NPO 新野球場と浜松百年の計を考える市民の会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浜松市篠原地区に県が新設する野球場について ・ 環境に配慮し、誰もが使いやすい「照明なしの野外球場」の整備 ・ 絶滅危惧種アカウミガメの産卵地保護を進めること (R6.2) <p>【商工会議所・市議会会派】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境に配慮した、多目的ドーム型スタジアムの建設を早期に実現 ・ プロ野球も開催できる 2.2 万人規模 ・ 野球以外の幅広い大型イベントも開催が可能な仕様 (R6.3)
R 6	<p>【多目的ドーム型スタジアム建設促進期成同盟会】 (新野球場建設促進期成同盟会から名称変更)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境に配慮した多目的ドーム型スタジアム ・ 野球以外の幅広い大型イベントも開催が可能な仕様 ・ プロ野球が開催できる 2.2 万人規模 (R6.6)

※基本構想策定（平成 28 年 5 月 30 日）以降の状況

(5) 社会動向

本事業に関連の高いスポーツ・レジャーや公園に求められる役割といった社会動向を整理します。

① スポーツ・レジャー

スポーツやレジャーに関する計画や需要について、整理します。

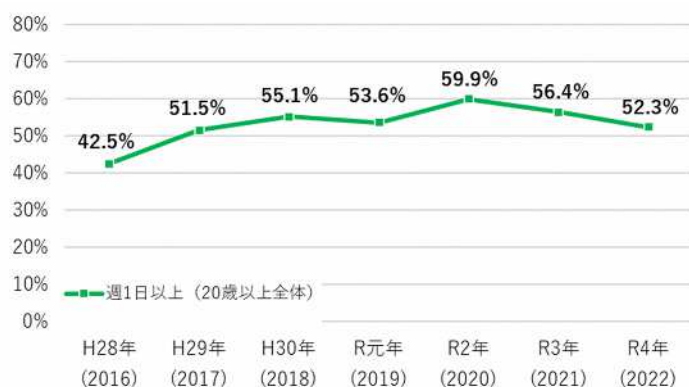
● 静岡県スポーツ推進計画（静岡県）

本計画では、「日常におけるスポーツ振興の最終目標としての『スポーツの聖地』をより分かりやすく表現し、スポーツの聖地づくりの取組を推進」を掲げています。スポーツの聖地の要素として、「“スポーツ・レクリエーション”から“競技”まで、それぞれの志向に応じ運動を楽しむことができる。」や「適正な対価によるサービスとして様々なスポーツを楽しめる環境があり、スポーツ施設等への投資が促進され、スポーツにより地域や経済が活性化される。」こととしています。

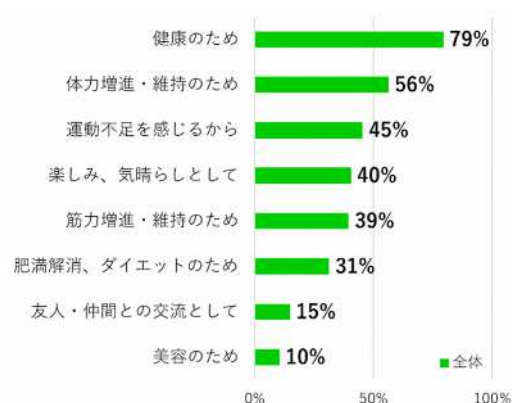
● スポーツの需要の高まり

健康のためや体力増進・維持のため、楽しみ、気晴らしとして、スポーツの需要が高まっています。また、今後、全国的に平均寿命の伸長と急速な高齢化を迎える中で、健康増進を目的としたスポーツ需要は、さらに高まっていくと考えられます。

図表 2-21 スポーツ実施率の推移



図表 2-22 実施理由



出典：スポーツの実施状況等に関する世論調査（令和4年度／スポーツ庁）

● スポーツの多様化

2020年東京オリンピック競技大会で新たに採用されたスケートボード、スポーツクライミング等を通して、アーバンスポーツ等のニーズが高まっています。また、スポーツを通じた共生社会の実現に向けた機運が醸成され、誰もが共に楽しめるインクルーシブなスポーツ^{*}のイベントが各地で開催されています。
^{*}年齢、性別、国籍、障害の有無にかかわらずだれでも楽しめるスポーツのこと

図表 2-23 スケートボード



出典：(公財)日本オリンピック委員会 HP

図表 2-24 ウォーキングフットボール



出典：一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 (JIFF) HP

● 屋外のパブリックスペース活用の広がり

公園をはじめとした街路、広場といった屋外のパブリックスペースは多様な用途で人々が集うにぎわいの場として活用が広がっており、価値が見直されています。

図表 2-25 芝生広場

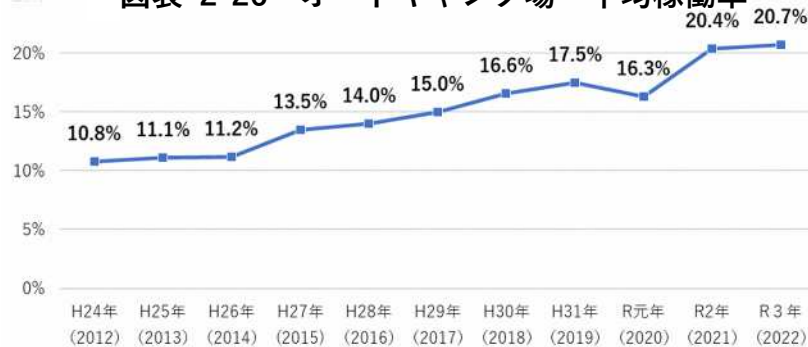


出典：兵庫県立三木山森林公園

● アウトドアレジャーの需要の高まり

新型コロナウイルス感染症による影響で密を避けたレジャーとして、屋外のアウトドアレジャーが注目されました。キャンプ場の稼働率の向上や国土交通省でのサイクルツーリズムの拡大と促進等、今後もアウトドアレジャーの需要は高まることが予想されます。

図表 2-26 オートキャンプ場 平均稼働率



出典：オートキャンプ白書 2023

● グリーンインフラとしての役割

「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会」(国土交通省／令和4年10月)では、「持続可能な都市を支えるグリーンインフラとなる公園」が公園の意義・役割として期待されています。

公園整備等による二酸化炭素の吸収源対策や雨庭、雨水貯留・浸透施設の整備等により、公園そのものがグリーンインフラとして「自然と共生する社会」に寄与することが期待されます。

図表 2-28 雨庭※



(まほろば健康パーク/大和郡山市)
※一時的に貯留し、ゆっくり地中に浸透させる構造を持つ

図表 2-29 雨水貯留碎石層上部のケヤキ並木



(グランモールパーク/横浜市)

(6) 官民連携に関する事業者意向

PFI 方式や Park-PFI 等の官民連携による事業手法を導入することにより、良質なサービスの提供やコスト削減、地域活性化など、様々な効果が期待できます。

計画地における官民連携による事業手法導入の可能性について、令和 3 年度から令和 5 年度にかけて、民間事業者との意見交換や、官民連携を導入している都市公園へのアンケート調査、民間事業者への聞き取り調査を行いました。

調査により、官民連携の可能性があることを確認できた一方、今後の課題も明らかになりました。

図表 2-30 民間事業者への調査概要

年度	調査方法
令和 3 年度	<p>○サウンディング型市場調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県、静岡市、浜松市が設けた意見交換の場^{※1}において、民間事業者から聞き取り調査を実施。 ・ 建設業、コンサルタント、不動産開発、金融業など延べ 29 社が参加 <p>○アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市公園内に野球場やスポーツ施設が計画されている施設や、官民連携を導入して整備している都市公園等の 5 施設に調査を実施
令和 4 年度	<p>○サウンディング型市場調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 3 年度と同様 ・ 建設業、コンサルタント、不動産開発、金融業など延べ 11 社が参加 <p>○ヒアリング調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 官民連携の実績のあるシンクタンク、金融系、スポーツ企業、大手ゼネコン、プロ野球球団などの民間事業者 9 社に聞き取り調査を実施
令和 5 年度	<p>○サウンディング型市場調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 3 年度と同様 ・ 建設業、コンサルタント、不動産開発、金融業など延べ 19 社が参加 <p>○アンケート・ヒアリング調査^{※2}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 官民連携の実績のある建設会社、施設管理会社、プロモーター、大手ゼネコン、プロ野球球団などの民間事業者 41 社に調査を実施

※1 ふじのくに官民連携実践塾（県主催）、静岡市 PPP/PFI 地域プラットフォーム、浜松市官民連携地域プラットフォーム

※2 令和 5 年度官民連携導入可能性調査業務委託

● 令和3年度調査での主な意見

- ・行政から公園のコンセプトを提示してもらえれば具体的な話が進む。(施設管理会社)
- ・公共、公益性を重視しながらも、利便性向上施設等に民間の提案が活かされる手法が望ましい。(コンサルタント会社)
- ・篠原地区は公園の規模が大きく、立地が良いので、導入施設の組み合わせによっては収益性が見込める。(建設会社、コンサルタント会社)

● 令和4年度調査での主な意見

○事業について

- ・スポーツ施設であってもスポーツではない内容で集客するなど多様性を考える必要がある。(事業運営会社)
- ・野球場の収益はプロ野球の興行次第である。(施設管理会社)
- ・野球場単体ではなく、公園全体で収益を上げたい。(興行会社、コンサルタント会社)
- ・PFI手法は事業期間が長く、近年の社会情勢を鑑みると先行きの不透明さからハードルが高くなっている。(施設管理会社)
- ・民間事業者は官民連携事業の参画に対し収益が見込めるかどうかをシビアに判断する。(施設管理会社)
- ・基本計画が定まっていない段階では、シミュレーションは難しい。(コンサルタント会社)
- ・リニアの開通やWEB等の通信手段の発達により東京、大阪の2極化が進むことが想像できる。今後、地方で人を集めることは難しくなるのではないか。(興行会社)
- ・一括施工となると設計段階から施工担当の意見を取り入れることが出来るため、時間のロスやコストなどの縮減が可能となる。(建設会社)

○プロ野球地方興行について

- ・興行収支を考えると2.0万人規模程度が良い。(プロ野球球団)
- ・収益の問題のほか、選手のコンディション等を考え1試合だけで遠征はせず隣県と併せて興行を組む。(プロ野球球団)
- ・試合後に、翌日の試合会場のある地域に移動するため、移動はバスで2時間半程度としたい。野球場周辺が渋滞すると、移動に影響が出てしまうので予め検討した方が良い。(プロ野球球団)

● 令和5年度調査での主な意見

○事業スキームについて

- ・公園全体を一体的に整備すれば、設計から施工・運営まで一括で行う PFI 事業が成立する可能性が高い。(建設会社、施設管理会社)
- ・BT 方式+コンセッション方式は、コストがかかり、リスクも大きいいため、事業者目線ではハードルが高い。(建設会社)
- ・段階的整備の場合も PFI 事業が成立する可能性は高いが、公園全体の一体性の確保が課題となる。(建設会社、施設管理会社)
- ・県が事業の方向性を示しつつも、提案の余地が確保されていることが望ましい。(建設会社、施設管理会社)
- ・事業期間は、15 年程度が望ましい。(建設会社、施設管理会社)

○野球場の整備について

- ・野球場の適正規模は、6 千人、1.3 万人、2.2 万人と意見が分かれた。(建設会社、施設管理会社)
- ・ドーム型の野球場は天候に左右されず野球以外の利用もできるメリットがあるが、屋外型に比べて建設費が高くなるデメリットがある(建設会社、施設管理会社)
- ・屋外型の野球場を建設した後、屋根をかけてドーム型とする段階整備の場合、建設費が割高になる可能性がある。(建設会社)
- ・多目的ドームは、可動式のスタンドや、各種スポーツに対応した天井高が必要になる等、建設費が割高になる可能性がある。(建設会社)
- ・廉価な料金が設定されることが想定されるため、独立採算で野球場の建設費を回収することは難しい。(建設会社)

○メイン球場の利用について

- ・音楽興行のニーズはほとんど見込めない。(プロモーター)
- ・プロ野球チームのキャンプやラグビーのホーム試合としての利用の可能性はある。(スポーツ企業)
- ・芝生広場での野外フェスは周辺環境への配慮から難しい。(プロモーター)
- ・格闘技やサーカス等のイベント利用は見込めるが、各種目に合わせて観客席・芝・設備等、あらかじめ設計・整備する必要がある。(運営会社)
- ・新球場が出来た場合も、現状の浜松球場と同じ日数、時期、目的の利用を想定している。(スポーツ関連団体)

○プロ野球地方興行について

- ・ 毎年、特定の球場での興行開催は決まっていはいない。(プロ野球球団)
- ・ 地方開催は減少傾向にある。(プロ野球球団)
- ・ 球場を持っている球団は、ホーム球場で試合を開催した方が飲食やグッズ販売等も含め利益が大きい。近年では、ホーム球場に多くの観客が集まる傾向にある。(プロ野球球団)

2.2 課題の整理

本計画における課題を次のように整理しました。

① 上位・関連計画における位置づけより

- ・ 計画地における野球場をはじめとしたスポーツ施設や公園は、レクリエーション拠点や都市における緑として位置づけられています。
- ・ 公共施設等の適切な維持保全と財政負担の軽減の両立を図る施設整備・管理運営が必要です。

② 広域的な状況より

- ・ 静岡県の硬式野球チームの登録状況を地域別に見ると浜松エリアが最も多くのチームを擁している一方で、県西部には県営球場がないことから、県西部の需要に対応できる野球場が不足しています。
- ・ 野球場の整備に当たっては、既存の野球場を管理運営している浜松市との適切な役割分担が求められます。

③ 計画地の状況より

- ・ 計画地の沿岸は、国内有数の長大な砂浜が続く海岸であり、浜松市天然記念物として指定されるアカウミガメの産卵地となっており、公園や体育施設の設備は、アカウミガメへの影響に配慮が必要です。
- ・ 計画地は、季節風による影響を受けることから、屋外施設に関して防風へ配慮が必要です。
- ・ 公共交通機関のアクセス手段が少ないため、アクセス手段の拡充検討や需要を見据えた駐車場の確保が必要です。
- ・ 隣接する病院の環境保全や周辺地区の交通環境への配慮が必要です。
- ・ 計画地は津波や洪水による浸水が想定されており、避難対策が必要です。
- ・ 隣接する海岸や防潮堤の地形を生かすことが必要です。
- ・ カーボンニュートラルや雨水利用、雨水浸透への配慮が必要です。

④ 県民意向より

- ・ 県民の多様なスポーツ・レクリエーションのニーズへの対応が必要です。
- ・ 練習から試合まで幅広い利用方法に対応した野球場の整備が必要です。
- ・ 公園とまちづくりとの連携により、地域振興に貢献することが求められています。

⑤ 社会動向より

- ・ 県民の健康増進や多様化するスポーツ需要へ対応が必要です。
- ・ 公園のストック効果やグリーンインフラとしての効果を高めることが必要です。
- ・ 屋外空間や自然の中でのアウトドアレジャー需要へ対応が必要です。

⑥ 官民連携に関する事業者意向より

- ・ 施設整備や管理運営において、事業への参画意欲を確認できており、活用の検討が必要です。
- ・ 資材や人件費、原油等の価格の上昇による建設費の高騰や、2024年問題による人手不足を考慮した事業スキームを検討する必要があります。

3章 公園整備プランの検討

基本計画のベースとなる公園整備プランについては、県民意見などを参考に3つのプランを作成し比較検討を行い、1つのプランを選定しました。また、選定した公園の整備プランをもとに、民間事業者へ需要調査を行い、計画地に導入する施設を設定しました。

3.1 公園整備プランの比較検討




計画条件等を踏まえ、3つのコンセプトを作成し、それに基づく導入機能の異なるプラン1、プラン2、プラン3の3案を作成しました。

作成したプラン1～3の概算事業費、年間維持管理費、年間経済波及効果、年間公園来場者数、費用便益比(B/C)、利用の多様性を比較[※]しました。

評価項目に基づき各プランを評価した結果、概算事業費・年間維持管理費が最小で、費用便益比が最大であり、多目的かつ自由に利用できる範囲が広いことからプラン3を選定しました。

※ 概 算 事 業 費	類似施設の建設費を基に面積比率等、物価上昇率を考慮し算出。
年間維持管理費	類似施設の維持管理費を基に面積比率等を考慮し算出。
年間経済波及効果	利用者が県内で消費する交通費、飲食費、お土産・買い物代、入場料・施設利用料といった直接消費額を静岡県産業連関表に投入し県内における経済波及効果を算出。
年間公園来場者数	類似施設の年間来場者数を基に面積比率等を考慮し算出。
費用便益比(B/C)	大規模公園費用対効果分析手法マニュアル（国土交通省）を則り算出。費用便益比は、公園整備による効果を貨幣価値に換算して事業に要する費用と比較したもの。
利 用 の 多 様 性	公園の機能について、定性的に評価。

図表 3-1 公園整備プラン

		プラン1 ボールパークを核とするスポーツの拠点公園	プラン2 木々と水辺に囲まれた自然・スポーツ公園	プラン3 みんなが楽しめる健康・スポーツ公園
公園全体イメージ				
コンセプト		野球をする方々の拠点として、野球の魅力の発信、裾野拡大、技術の向上を図るとともに、幅広い県民のスポーツ活動の拠点となる公園	遠州灘海岸に隣接する地域特性を活かし、豊かな水辺環境の中で野球を中心としたスポーツやレクリエーションが楽しめる公園	豊かな緑地空間の中、野球を中心としたスポーツやレクリエーションを通じて、幅広い年齢層の県民が健康づくりに取り組むことができる公園
特徴		幅広い野球利用者のニーズに対応できる充実した野球施設（メイン球場1面、サブ球場3面、ソフトボール場1面）を配置	気軽にカヌー等の水上スポーツを体験できる「池」や大人から子どもまで水に親しむことができる「水遊び場」及びビーチスポーツが行える砂地の「スポーツ広場」を配置	グラウンドゴルフや家族みんながスポーツを楽しめる多目的広場を広く確保し、あらゆる年代の方が気軽に健康づくりに取り組むことができる「健康増進拠点」を配置
導入機能	共通	【全プラン同規模の施設】 メイン球場（2.2万人、1.3万人）、第1サブ球場（スタンド無し）1面、屋内運動場、園路、駐車場（常設1,500台）、スポーツ広場、休憩施設、木漏れ日の森、管理棟、ブルペン、スポーツ活動拠点、売店 【プランによって規模の異なる施設】 多目的広場等		
	特有	サブ球場2面（スタンド有り・無し）、ソフトボール場、打撃専用練習場	池、水遊び場、スポーツ広場（砂）、子ども広場	サブ球場（スタンド無し）、子ども広場、健康増進拠点、スポーツ広場（土）
概算事業費		150億円	150億円	140億円
年間維持管理費		2.0億円	2.0億円	1.9億円
年間経済波及効果		11.8億円	11.0億円	11.3億円
年間公園来場者数		37.0万人	36.7万人	36.7万人
費用便益比(B/C)		6.3	6.5	6.7
利用の多様性		<ul style="list-style-type: none"> 幅広い野球関係者のニーズに対応できる充実した野球施設を配置している。 野球以外のニーズに応えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 池では気軽にカヌー等の水上スポーツを体験できる。 利用形態が限られてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 多目的広場が広いためイベントやスポーツ、防災活動など様々な使い方が可能である。 官民連携を導入する場合、民間からの事業参画が得られる可能性が高い。

※表中の数値は R4 年度算出



評価結果

【プラン3】みんなが楽しめる健康・スポーツ公園

3.2 導入機能の需要調査

選定した公園整備プランをもとに令和5年度官民連携導入可能性調査において導入機能に関する需要調査を行いました。民間事業者のヒアリングでは、アーバンスポーツやアスレチック等に対し集客の可能性があることを確認できましたが、常設の飲食機能については収益性の確保が困難な可能性が高いことがわかりました。(図表 3-2 参照)

図表 3-2 需要調査における意見（令和5年度官民連携導入可能性調査業務委託）

- ・スケートボード、BMX 等のアーバンスポーツ施設の導入することで、より多くの集客の可能性がある。(施設管理会社、アーバンスポーツ事業者)
- ・合宿施設等を併設することで、より多くの集客の可能性がある。(施設管理会社)
- ・アスレチックの運営は専門事業者への委託が必要であるが集客の可能性がある。(アスレチック事業者、運営維持管理会社)
- ・常設の売店・カフェレストランといった収益施設は収益性の確保が困難。キッチンカーや地元の飲食店の特設売店の出店等の仮設施設が望ましい。(運営維持管理会社)
- ・芝と土の施設であれば、芝の施設の方が稼働率は高いが維持管理費は多くかかる。(運営維持管理会社)
- ・十分な駐車場を確保することが重要。(運営維持管理会社)

※詳細は令和5年度官民連携導入可能性調査業務委託報告書参照

4章 コンセプト・基本方針

計画課題と公園整備プランの検討を受けて、基本計画におけるコンセプトと4つの基本方針を設定しました。

● コンセプト

みんなが楽しめる健康・スポーツ公園

豊かな緑地空間の中、野球を中心としたスポーツやレクリエーションを通じて、幅広い年齢層の県民が健康づくりに取り組むことができる公園

● 基本方針

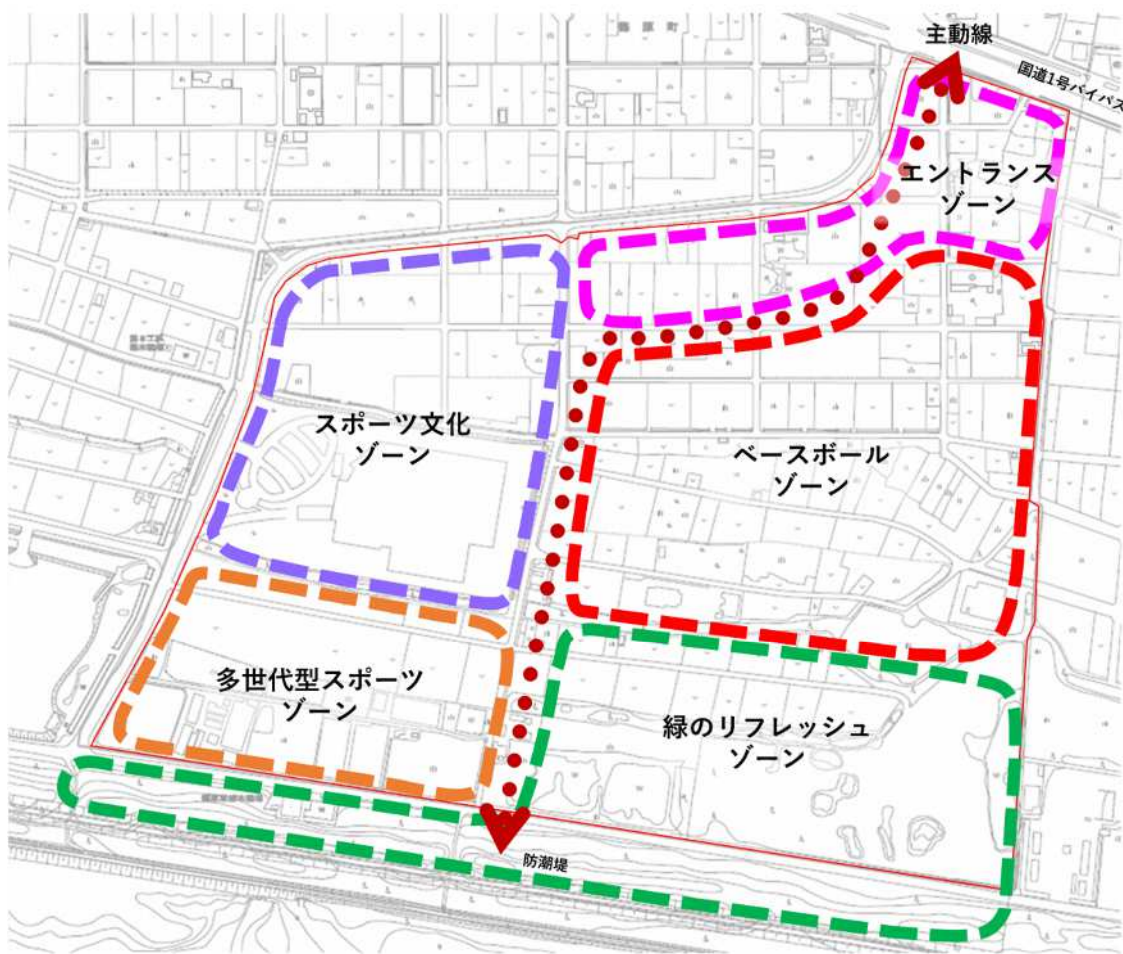
- ① **競技スポーツから健康づくりまで様々なスポーツを楽しめる空間の創出**
 - ・ 練習から大会開催までの多岐にわたる用途に対応できる野球場を整備します。
 - ・ 地域のスポーツ文化の中心の浜松市総合水泳場（ToBiO）からこれまで若者文化であったアバンスポーツまで幅広いスポーツ文化に対応した環境を整備します。
 - ・ 健康増進や遊びといった気軽に体を動かせる楽しみながらスポーツを行える施設を整備します。
- ② **人々が自然の中で安らぎやアウトドアレジャーを楽しめる空間の創出**
 - ・ 遠州灘海岸沿いの立地や緑の景観を生かし、自然の中で安らぎリフレッシュしながらアウトドアレジャーを楽しめる空間を整備します。
 - ・ ランニング等の自然の中でのアクティビティができる環境を整備し、防潮堤との連続性を確保します。
- ③ **生物多様性や地球環境への配慮**
 - ・ 施設整備にあたっては、アカウミガメや周辺地区の環境に影響を及ぼさないよう環境への配慮し、環境との共生を目指します。
 - ・ 生物多様性や緑によるCO₂の吸収、災害に対して効果を発揮する公園の役割を最大限発揮する施設として整備します。
- ④ **効率化・コスト縮減とサービス向上を両立するため民間ノウハウや地域の多様な主体と協力した管理運営手法の活用**
 - ・ 地域のまちづくりに配慮した施設配置を行います。
 - ・ 民間活力導入による効率化・コスト縮減とサービス向上を実現する整備・管理運営手法を検討します。

5章 公園整備計画

5.1 ゾーニング

北側は国道1号バイパスに接道、南側は松林に覆われた防潮堤を介し遠州灘海岸に面した篠原地区の地形を活かし、ゾーニングを計画しました。計画地のゾーニングの考え方を図表 5-2 に整理しました。

図表 5-1 ゾーニング図



図表 5-2 ゾーニングの考え方

ゾーン	考え方
エントランス ゾーン	<p>国道1号バイパスに面した計画地北東部をエントランスゾーンとします。</p> <p>来訪者を迎え入れる公園の顔となるゾーンとして位置づけ、来訪者の交流やイベントの開催もできるパークエントランスと多目的広場を配置します。</p>
スポーツ文化 ゾーン	<p>市道に面した計画地北西部をスポーツ文化ゾーンとします。</p> <p>浜松市のスポーツ推進計画をふまえ、スポーツ文化を発信するゾーンとして位置づけ、外部からも見通しの良いオープンなアーバンスポーツ広場と多目的広場、「競技力の向上」と「健康増進」の両面の機能を併せ持つ浜松市総合水泳場（ToBiO）を配置します。</p>
ベースボール ゾーン	<p>計画地の東側中央部をベースボールゾーンとします。</p> <p>練習から大会開催までの多岐にわたる用途で野球ができる計画地の中心として位置づけ、野球場、屋内運動場を配置します。</p>
緑の リフレッシュ ゾーン	<p>計画地の南東部を緑のリフレッシュゾーンとします。</p> <p>自然の中でリフレッシュができるゾーンとして位置づけ、防潮堤と連続した緑の空間として木漏れ日の森とアウトドア広場や芝生の多目的広場を配置します。</p>
多世代型 スポーツ ゾーン	<p>計画地の南東部を多世代型スポーツゾーンとします。</p> <p>子供から大人まで誰もが楽しみながら気軽に体を動かせるゾーンとして位置づけ、健康広場、アスレチック、子ども広場、スポーツ活動拠点、多目的広場を配置します。</p>

5.2 施設配置計画

ゾーニングを踏まえ、各ゾーンの施設を配置しました。

図表 5-3 施設配置図



(1) エントランスゾーン

来訪者を迎え入れる公園の顔となるゾーンとなるエントランスゾーンは、来訪者の交流やイベントの開催もできるパークエントランスと多目的広場を配置しました。

図表 5-4 施設配置計画(エントランスゾーン)

施設名称	規模	考え方
パーク エントランス	—	<ul style="list-style-type: none">・ 国道 1 号バイパスに接し高塚駅から一番近い敷地北東にメインのエントランスとして配置。・ 高塚駅方面からの園外からの導入部として、園内中心部や球場への誘導を図るための空間。
多目的広場 (北東)	約 5,000 m ²	<ul style="list-style-type: none">・ パークエントランスに隣接して配置。・ イベントの会場や自由な遊びに使える広場。・ 大会・イベント開催時には関係者の臨時駐車場としても利用可能。

(2) スポーツ文化ゾーン

スポーツ文化を発信するスポーツ文化ゾーンは、外部からも見通しの良いオープンなアーバンスポーツ広場と多目的広場、「競技力の向上」と「健康増進」の両面の機能を併せ持つ浜松市総合水泳場（ToBiO）を配置しました。

図表 5-5 施設配置計画(スポーツ文化ゾーン)

施設名称	規模	考え方
浜松市 総合水泳場 (ToBiO)	1 施設	<ul style="list-style-type: none">・ 国際公認規格のプールを有し、大会開催や、屋外レジャープールや温浴施設、トレーニングジムなどを多様な用途に対応できる既存施設の機能を活かし、球場とともに計画地における中心施設とする。
アーバン スポーツ広場	約 6,000 m ²	<ul style="list-style-type: none">・ 市道に面する外から目につきやすい位置に配置。・ ボルダリング、BMX、スケートボード、3×3等のアーバンスポーツを実施できる施設。・ 若年層を中心とした利用者による賑わいが公園外に広がり、公園内へと人を呼び込む空間。
多目的広場 (北西)	約 17,000 m ²	<ul style="list-style-type: none">・ スポーツ対応の平坦な広場とし、サッカーコート 1 面がとれる規模とする。・ 大会・イベント開催時には臨時駐車場としても利用可能。

(3) ベースボールゾーン

練習から大会開催までの多岐にわたる用途で野球ができる計画地の中心となるベースボールゾーンは、スタジアムエントランス、中央広場、野球場、屋内運動場を配置しました。

図表 5-6 施設配置計画(ベースボールゾーン)

施設名称	規模	考え方
スタジアム エントランス	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 球場等での大会・イベント開催時の滞留空間となるようメイン球場の横に配置。 ・ イベント開催時などには多様な利用を可能とする球場周辺の賑わいを創出する空間。
中央広場	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防潮堤や各施設からアクセスが容易な公園中央部に配置。 ・ 広場内に公園全体の案内板やインフォメーションセンターを整備し、総合案内場としての機能を確保。
メイン球場	1 施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゾーンの中心に配置。 ・ 硬式野球の公式試合の規格に対応したグラウンドとする。 ・ 大会に対応した客席を備えた球場。
サブ球場	2 施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ メイン球場周辺に 2 つ配置。 ・ 硬式野球やソフトボールの練習・試合、その他大会時のアップ練習場所として、利用可能。
屋内運動場	1 施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ メイン球場とサブ球場の中心に配置。 ・ 全天候型の屋内のグラウンド。野球等のスポーツ競技、地域催しの開催場所として、利用可能。

(4) 緑のリフレッシュゾーン

自然の中でリフレッシュができる緑のリフレッシュゾーンとして位置づけ、防潮堤と連続した緑の空間として木漏れ日の森とアウトドア広場や芝生の多目的広場を配置しました。

図表 5-7 施設配置計画(緑のリフレッシュゾーン)

施設名称	規模	考え方
木漏れ日の森	約 14,000 m ²	<ul style="list-style-type: none">・ 海浜部に適した樹木を選定し、樹林の散策路。・ 既存の動植物の生息・生育環境に配慮した空間を創出。
アウトドア広場	約 8,000 m ²	<ul style="list-style-type: none">・ 一体的な緑の景観が広がるよう木漏れ日の森の隣に配置。・ 緑の中でのびのびと過ごせるデイキャンプ等のレジャーの利用が可能。
多目的広場 (南東)	約 10,000 m ²	<ul style="list-style-type: none">・ 木漏れ日の森やアウトドア広場と連続的な防潮堤の緑を臨める芝の広場。・ グラウンドゴルフやピクニック等で利用できる平坦な芝生の広場とする。

(5) 多世代型スポーツゾーン

子供から大人まで誰もが楽しみながら気軽に体を動かせる多世代型スポーツゾーンは、健康広場、アスレチック、子ども広場、スポーツ活動拠点、多目的広場を配置しました。

図表 5-8 施設配置計画(多世代型スポーツゾーン)

施設名称	規模	考え方
健康広場	約 6,800 m ²	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に健康づくりに取り組むことができる健康遊具を導入。 ・ 地域住民の健康増進を図る場所。
アスレチック	約 5,200 m ²	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然の中の大型アスレチックを導入。 ・ 大人から子供まで幅広い利用者が対象。
子ども広場	約 4,500 m ²	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大型遊具から小型遊具まで様々な遊具を導入。 ・ 幼児から児童まで様々な年代の子どもの利用が対象。
スポーツ活動拠点	1 施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 更衣室・シャワー等が入った施設を防潮堤のトレイル利用者や公園内のスポーツ施設利用者、アウトドア広場のデイキャンプ利用者等が利用しやすい主動線に隣接した位置に配置。 ・ 学生やスポーツチームの合宿の受け入れが可能な宿泊機能を有する。
多目的広場 (南西)	約 10,000 m ²	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会開催時等の臨時駐車場やグリーンインフラとして雨水を一時的に貯めて雨水の流出を調整する調節池機能を持つ広場。 ・ 平常時は、親子でキャッチボールやサッカーなどの練習を気軽にできる平坦な広場。多目的広場（南東）と一体的な利用をすることで、大型イベントの開催も可能。

5.3 動線計画

ゾーニングや施設配置を踏まえて、歩行者及び管理車両の動線を計画しました。

(1) 動線

計画地内の動線については、①歩行者動線、②管理車両動線を計画しました。

① 歩行者動線（主動線）

公園中心に国道 1 号バイパスから防潮堤までの南北につながる主動線とします。パークエントランスからスタジアムエントランスは高木を列植する等によりビスタを通し、公園の内部へと視線の誘導を行い、園内へ人を呼び込みます。

中央広場から防潮堤を直線形状につなぎ、遠州灘ロングトレイルまで移動を楽しめるシンボル性のある園路としました。

災害時の避難経路も兼ねており、一直線の動線であることから、一時避難場所の浜松市総合水泳場まで避難経路は明確となります。

② 管理車両動線

公園内の主動線は管理車両も通行する幅員を確保し、各エリアの施設のメンテナンス時にアクセスできる動線としました。

(2) 駐車場

① 設定の考え方

日常的（平日・休日）と大会・イベント利用の両方の状況を踏まえ、駐車場の考え方を検討します。大会・イベントの開催時は、来園者が非常に多くなり、周辺も含んで交通混雑が発生する等、運営上課題が発生することが想定されます。

そのため、大会・イベント利用時は、常設駐車場に加えて、不足する台数分については多目的広場を臨時駐車場として対応します。また、臨時駐車場でも台数が不足する場合は、中田島地区等の篠原地区外駐車場からシャトルバスでアクセスするパークアンドライド方式も想定しました。

図表 5-9 利用形態ごとの駐車場対応

利用形態	主要対象者	想定交通手段	園内駐車場		地区外 駐車場
			常設	臨時	
日常利用	・ 日常利用者	・ 自家用車 ・ 路線バス ・ 鉄道（高塚駅） ・ 徒歩・自転車	○		
大会・ イベント	・ 競技者 ・ 運営者 ・ 観客	・ 自家用車 ・ 路線バス ・ 団体バス ・ 鉄道（高塚駅） ・ 徒歩・自転車 ・ シャトルバス (浜松駅や中田島地区発)	○	○	○ (中田島 地区等)

② 駐車場規模

常設駐車場は、日常利用にはゴールデンウィークや夏休みなど最大の駐車台数が必要なピーク時に対応可能な駐車台数として、1,500 台とします。

臨時駐車場は、大会・イベント利用時に対応可能な駐車台数として、1,000 台としました。

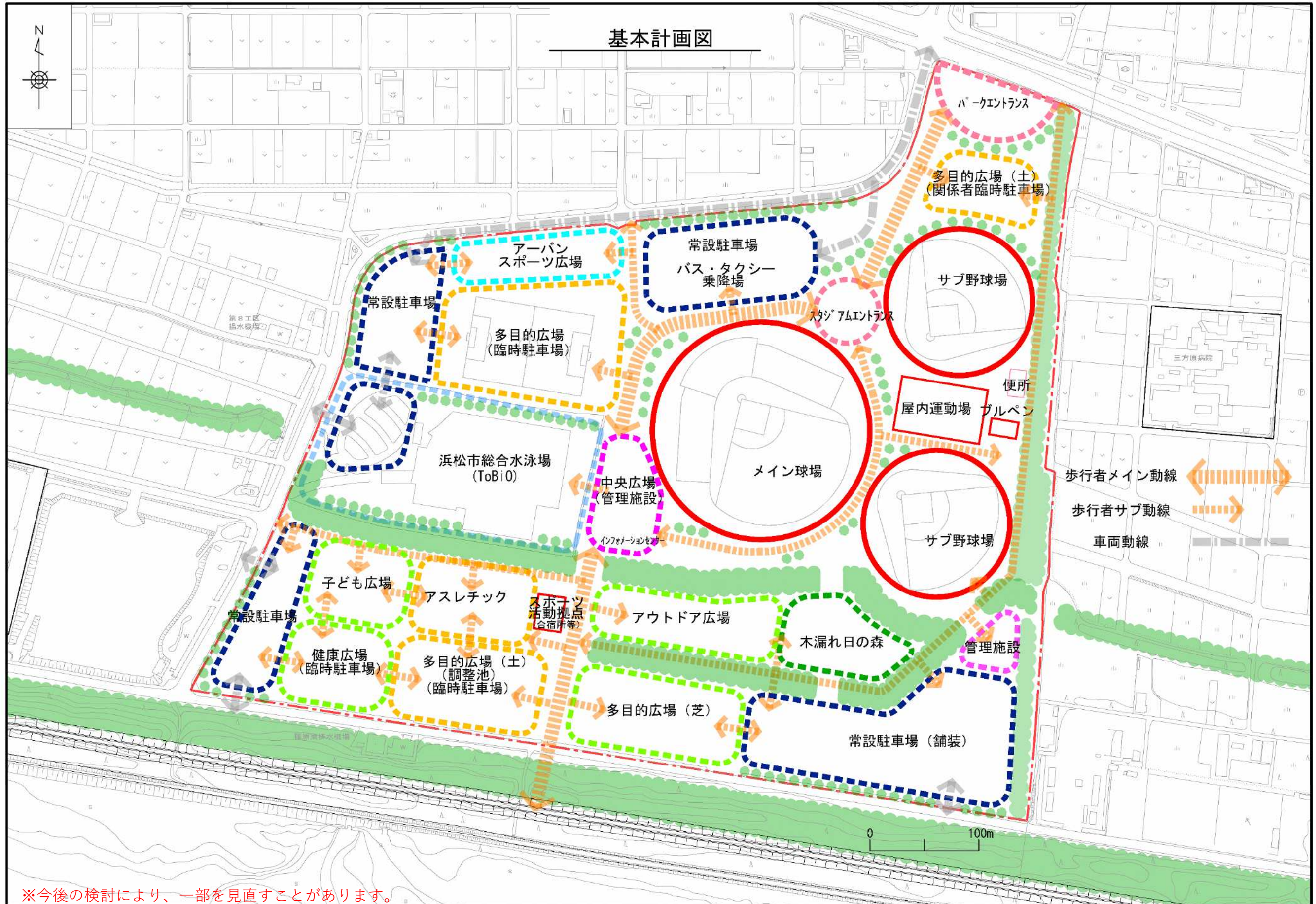
図表 5-10 駐車台数

名称	台数	考え方
常設駐車場	1,500 台	
北側駐車場	400 台	北側のスポーツゾーン全体のメイン駐車場。 バス・タクシーのロータリーを設けて、公共交通利用者の乗降場の機能も兼ねる。
北西駐車場	250 台	主に北東多目的広場やアーバンスポーツに対応した駐車場。 隣接する総合水泳場（ToBiO）の利用ピーク時の臨時駐車場としての対応も想定。
南西駐車場	200 台	主に子ども広場や健康広場に対応した駐車場。 防潮堤（ロングトレイル）を利用も想定。
南東駐車場	650 台	アウトドア広場や南西多目的広場に対応した駐車場。 大会・イベント利用時には資材置き場としての利用も想定。
臨時駐車場	1,000 台	
北西多目的広場	300 台	
南西多目的広場	400 台	
健康広場	300 台	
合計	2,500 台	

※新設駐車場 1,500 台のうち 2.9%（44 台）を大型車用駐車場とする。（静岡県営公園事例参考）

※駐車台数の内訳は今後の検討により変更の可能性はある。

5.4 基本計画図



6章 メイン球場の整備方針

メイン球場の規模・構造について、16の野球場タイプから比較検討を行い、3ケースに絞り込みました。基本計画策定後、社会情勢やニーズの変化を注視しながら、整備の進め方や役割分担等について検討を行います。

6.1 野球場の規模・構造等の考え方

① 観客席の規模の考え方

観客席の規模は、県内の主な球場を参考に6千人、1万人、1.3万人、2.2万人の少年野球からプロ野球の試合まで対応できる野球場の規模を設定しました。

図表 6-1 県内の同規模の野球場の利用状況

規模	県内の同規模の球場		過去の開催実績	
			プロ野球	高校野球大会
2.2万人	草薙球場		開催実績あり (1軍公式戦)	開催実績あり (決勝戦の開催)
1.3万人	愛鷹球場	 (愛鷹広域公園提供)	開催実績あり (1軍オープン戦・2軍)	開催実績あり
1.0万人	清水庵原球場	 (静岡市提供)	—	開催実績あり
6千人	浜岡球場	 (御前崎市提供)	—	開催実績あり

② 構造の考え方

構造は、屋外球場の「外野スタンド：コンクリート構造」と「外野スタンド：盛土構造」、野球場のナイター照明がアカウミガメへの影響を考慮した「ドーム構造」の3ケースとしました。主な特徴を図6-2に整理しました。

図表 6-2 構造ごとの主な特徴

構造	特徴	事例
外野スタンド： コンクリート構造	外野スタンドをコンクリート構造にすることで高い防風効果が期待できるが、事業費が高くなる。	 ZOZO マリンスタジアム(千葉市提供)
外野スタンド： 盛土構造	外野スタンドを盛土構造（樹林帯）にすることで防風効果は低くなるものの、事業費が抑えられると共に緑化にも寄与する。	 いわて盛岡ボールパーク(盛岡市提供)
ドーム構造	ドーム構造にすることで自然環境に配慮できるが、事業費が高くなる。	 札幌ドーム(札幌市提供)

③ ナイター照明の考え方

ドーム構造と同様にアカウミガメへの影響に配慮し、屋外照明のない球場をケースに加えました。

6.2 メイン球場候補案

観客席の規模、構造、ナイター照明の考え方を組合せ、16の野球場タイプについて比較を行いました。

図表 6-3 メイン球場候補一覧

タイプ	規模	ナイター照明	構造			
			外野スタンド: コンクリート構造	外野スタンド: 盛土構造	ドーム構造	
タイプA	2.2 万人	照明あり	●			
		照明なし	●			
タイプB		照明あり		●		
		照明なし		●		
タイプX		—			●	
タイプC		1.3 万人	照明あり	●		
	照明なし		●			
タイプD	照明あり			●		
	照明なし			●		
タイプY	—				●	
タイプE	1.0 万人		照明あり		●	
		照明なし		●		
タイプF		—			●	
タイプG		0.6 万人	照明あり		●	
			照明なし		●	
タイプH			—			●

6.3 メイン球場の比較検討

メイン球場の規模・構造を3回の選定作業を経て絞り込みました。

(1) 一次選定

令和4年度の環境影響予測調査業務委託の結果^{*}、アカウミガメの子ガメの動向に人工光の影響があることがわかりました。このため、一次選定では、16タイプからアカウミガメへの影響を考慮した10タイプを選定しました。

※令和4年度環境影響予測調査業務委託報告書参照

図表 6-4 一次選定の結果

調査結果	アカウミガメの子ガメの動向に人工光の影響がある
選定基準	アカウミガメへの影響を考慮した球場を選定
一次選定条件	屋外型「照明あり」の6タイプを除外



タイプ	規模	ナイター照明	構造
タイプ A	2.2 万人	照明なし	外野スタンド:コンクリート構造
タイプ B		照明なし	外野スタンド:盛土構造
タイプ X		—	ドーム構造
タイプ C	1.3 万人	照明なし	外野スタンド:コンクリート構造
タイプ D		照明なし	外野スタンド:盛土構造
タイプ Y		—	ドーム構造
タイプ E	1.0 万人	照明なし	外野スタンド:盛土構造
タイプ F		—	ドーム構造
タイプ G	0.6 万人	照明なし	外野スタンド:盛土構造
タイプ H		—	ドーム構造

(2) 二次選定

令和5年度の官民連携導入可能性調査の結果、高校野球大会の開催には、野球場の収容人数として1.3万人以上の規模が求められることがわかりました。このため、二次選定は、6タイプを選定しました。

図表 6-5 二次選定の結果

調査結果	浜松市営球場における高校野球大会の最大入場者数の実績から内野席は6,000席以上が必要 県内で同規模の内野席を有する野球場の収容人数は、内外野を合わせて1.3万人以上
選定基準	1.3万人以上の球場を選定
二次選定条件	高校野球大会の入場者数に対応できない野球場の規模の1.0万人、0.6万人の4タイプを除外



タイプ	規模	ナイター照明	構造
タイプA	2.2万人	照明なし	外野スタンド:コンクリート構造
タイプB		照明なし	外野スタンド:盛土構造
タイプX		—	ドーム構造
タイプC	1.3万人	照明なし	外野スタンド:コンクリート構造
タイプD		照明なし	外野スタンド:盛土構造
タイプY		—	ドーム構造

図表 6-6 三次選定候補の概要

整備タイプ		タイプ A	タイプ B	タイプ X
		草薙球場相当 (2.2 万人)		
野球場の構造		外野スタンド： コンクリート構造	外野スタンド： 盛土構造	ドーム構造
概算事業費(R4 算出)		200 億円	100 億円	370 億円
年間維持管理費(R4 算出) (大規模改修費除く)		0.8 億円	0.7 億円	1.3 億円
評価	① プロ野球開催	可能 (条件付)	可能 (条件付)	可能
	② 多目的利用	可能 (雨天×)	可能 (雨天×)	可能
	③ 風の影響	小	大 (野球シーズンは小)	無
	④ 建設・維持管理費	大	小	極めて大
	⑤ 利用料金	既存球場と同程度	既存球場と同程度	既存球場より高い
	⑥ 規模・構造変更	困難	可能	—
	⑦ その他	—	浜松市営球場と同程度	期成同盟会要望の構造

整備タイプ		タイプ C	タイプ D	タイプ Y
		愛鷹球場相当 (1.3 万人)		
野球場の構造		外野スタンド： コンクリート構造	外野スタンド： 盛土構造	ドーム構造
概算事業費(R4 算出)		140 億円	70 億円	290 億円
年間維持管理費(R4 算出) (大規模改修費除く)		0.6 億円	0.5 億円	1.0 億円
評価	① プロ野球開催	不可	不可	不可
	② 多目的利用	可能 (雨天×)	可能 (雨天×)	可能
	③ 風の影響	小	大 (野球シーズンは小)	無
	④ 建設・維持管理費	大	小	極めて大
	⑤ 利用料金	既存球場と同程度	既存球場と同程度	既存球場より高い
	⑥ 規模・構造変更	困難	可能	不可
	⑦ その他	—	野球協議会要望と同程度	—

(3) 三次選定

三次選定では、これまでの検討を総合的に捉え、社会情勢・ニーズの変化に応じられる3タイプ選定しました。

また、令和5年度の官民連携導入可能性調査の結果、これら3タイプは1.3万人以上の規模の球場であり、その規模からPFI事業の成立が見込める可能性が高いことがわかりました。

図表 6-7 三次選定の結果

選定基準	社会情勢・ニーズの変化に応じられる球場を選定
三次選定条件	規模・構造の変更が困難な「外野スタンド:壁構造」、「ドーム構造(1.3万人)」の3タイプを除外



タイプ	規模	ナイター照明	構造
タイプB	2.2万人	照明なし	外野スタンド:盛土構造
タイプX	2.2万人	—	ドーム構造
タイプD	1.3万人	照明なし	外野スタンド:盛土構造

6.4 メイン球場の今後の方向性

三次選定で絞り込んだ「1.3万人の屋外型」、「2.2万人の屋外型」、「2.2万人の多目的ドーム型」の3タイプについて、引き続き検討を行います。

図表 6-8 メイン球場の選定のまとめ

【条件のまとめ】

- ・ アカウミガメへの影響を考慮したタイプを選定
- ・ 現在の需要見込みに合致し、PFI事業の成立が見込める1.3万人以上の規模
- ・ 規模・構造の変更が困難なタイプを除外



■ 1.3万人の屋外型（愛鷹球場相当：タイプD）：照明なし

- ・ 建設費・維持管理費が最も安価であり、最低限必要な規模

<留意点>

- ・ プロ野球を開催するには規模が小さく、イベントを開催するには天候の影響を受ける

■ 2.2万人の屋外型（草薙球場相当：タイプB）：照明なし

- ・ 県西部地域の拠点球場としての役割や、都市規模に応じた草薙球場と同規模

<留意点>

- ・ プロ野球は開催可能であるが、イベントを開催するには天候の影響を受ける

■ 2.2万人の多目的ドーム型（地元が要望する規模・構造：タイプX）

- ・ 野球以外の幅広いイベントも開催可能な構造

<留意点>

- ・ 地元（浜松市・経済界）による公園周辺のまちづくりやプロ野球以外の大規模イベント誘致によるにぎわい創出の具体化及び交通アクセスの改善
- ・ 地元（浜松市・経済界）や民間企業からの建設費・維持管理費の負担や再生可能エネルギー活用等による利用料金の低減

(R4算出)

概算事業費	70億円
年間維持管理費 (大規模改修費除く)	0.5億円

静岡県営愛鷹球場
(愛鷹広域公園提供)



(R4算出)

概算事業費	100億円
年間維持管理費 (大規模改修費除く)	0.7億円

いわて盛岡ボールパーク
(盛岡市提供)



(R4算出)

概算事業費	370億円
年間維持管理費 (大規模改修費除く)	1.3億円

札幌ドーム
(札幌市提供)



【メイン球場の今後の方向性】

野球場の規模・構造は「1.3万人の屋外型」、「2.2万人の屋外型」、「2.2万人の多目的ドーム型」の3案について引き続き検討を行う。

7章 官民連携による事業手法等の検討

「官民連携に関する事業者意向」（P23 参照）から、本事業への民間事業者の参画意向を確認できました。このことから、令和5年度官民連携導入可能性調査業務委託を実施し、事業手法を検討しました。以降に調査概要を示します。

7.1 事業手法・スキームの検討

想定される複数の事業手法・スキームについて、民間事業者へのヒアリング等で検証を行いました。その結果、野球場・公園施設・民間収益施設の全てにおいて、サービス対価の支払いを基本とする PFI（BTO）方式が有力であることが分かりました。（方式の説明は図表 7-1 参照）

(1) 事業手法の検討

対象施設及び業務を可能な限り一体化することを前提として、事業手法の検討を行いました。

民間ヒアリングで確認した結果、独立採算の要素が強いコンセッション方式等の事業手法は、当該事業の事業性を確保することが難しいと想定され、不適との意見が多くありました。

そのため、基本的な考え方として、整備費も含めサービス対価を支払う事業手法である PFI（BTO）方式や DBO 方式が望ましいことが分かりました。

(2) スキームの検討

事業手法の検討を踏まえ、スキームを民間ヒアリング等の結果から検証し、4つのスキームをもとに検討を行いました。

メイン球場及び公園施設は PFI（BTO）方式及び DBO 方式の活用をベースとし、民間収益施設については PFI（BOO）方式、Park-PFI、PFI（BTO）方式の活用を想定しました。

民間ヒアリング及び当該事業の立地条件等を考慮すると、PFI（BOO）方式や Park-PFI のように独立採算要素が強い場合、事業採算性が見込み難くリスクが大きいとの意見が多いことから事業として成立しない可能性が高いとわかりました。

したがって、野球場・公園施設・民間収益施設の全てにおいて、サービス対価の支払いを行うスキーム C の PFI（BTO）方式が有力となったため、このスキームを基本としました。（図表 7-2 参照）

図表 7-1 本事業で適用候補となる官民連携の方式

区分	方式		説明
公共施設等の整備、維持管理・運営を担う方式	PFI方式	BTO方式 (Build-Transfer-Operate)	民間事業者が公共施設等を建設し、施設完成直後に公共に所有権を移転し、民間事業者が維持管理・運営を行う方式のこと。
		BOO方式 (Build-Own-Operate)	民間事業者が公共施設等を設計・建設し、維持管理・運営を行い、事業終了時点で解体・撤去するなど、公共側への施設の所有権移転がない方式のこと。
	DBO方式 (Design-Build-Operate)		公共が国の交付金や公債等により施設建設の資金を市中金利と比較して低金利で調達し、民間事業者に施設の設計・建設と維持管理・運営を一括で担わせる方式のこと。
都市公園において民間施設を主体とした整備、維持管理・運営を担う方式	Park-PFI方式 (P-PFI)		飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う「公募設置管理制度」のこと。
公共施設等の維持管理・運営を担う方式	公共施設等運営権制度 (コンセッション方式)		利用料金の徴収を行う公共施設について、施設の所有権を公共主体が有したまま、施設の運営権を民間事業者に設定する方式のこと。
	指定管理者制度		公共側が民間事業者を指定管理者として指定し、公の施設の維持管理・運営を包括的に委ねる制度のこと。(PFI方式やDBO方式と併用されることも多い。)

図表 7-2 スキームの検討

		スキーム A			スキーム B			スキーム C			スキーム D					
		メイン 野球場	公園 施設	民間収益 施設	メイン 野球場	公園 施設	民間収益 施設	メイン 野球場	公園 施設	民間収益 施設	メイン 野球場	公園 施設	民間収益 施設			
業務 範囲	設計	一体化			一体化			一体化			一体化					
	建設															
	維持管理・ 運営	別途業務		別途業務		別途業務		別途事業								
	改修等	別途業務		別途業務		別途業務		別途事業								
想定方式		PFI (BTO) ※		PFI (BOO)	PFI (BTO) + P-PFI (特定公園施設) ※		P-PFI (公募対象 公園施設)		PFI (BTO) ※		PFI (BTO) ※		DBO + P-PFI (特定公園施設) ※		P-PFI (公募対象 公園施設)	
想定条件		収益性：民間事業者は県からサービス対価をもらう想定。 民間収益施設：民間の自由提案により、民間事業者が施設所有も含め独立採算で実施。			民間収益施設：民間の自由提案により、民間事業者が施設所有も含め独立採算で実施。			民間収益施設：箱は公共整備とし、テナントを民間で誘致、運営は独立採算とする。			収益性：民間事業者は県からサービス対価をもらう想定。 民間収益施設：民間の自由提案により、民間事業者が施設所有も含め独立採算で実施。					
評価	民間事業者の工夫 や効率性	○ 工夫や民間ノウハウによる効率化が期待。			○ 工夫や民間ノウハウによる効率化が期待。			○ 工夫や民間ノウハウによる効率化が期待。			○ 工夫や民間ノウハウによる効率化が期待。					
	財政支出の平準化	○ サービス購入型を想定する場合、財政支出の平準化が可能。			○ サービス購入型を想定する場合、財政支出の平準化が可能。			○ サービス購入型を想定する場合、財政支出の平準化が可能。			△ PFI のように事業期間にわたる延払いは不可能。					
	実現可能性	△ 立地条件から難しいとの意見が多い。			○ 民間収益施設は、小規模な範囲に P-PFI であれば可能性がある。			○ 民間収益施設は、箱は公共負担とし、テナント導入程度であれば可能性がある。			○ 民間収益施設は、小規模な範囲に P-PFI であれば可能性がある。					
	民間からの関心	△ 民間収益施設は、民間所有とする場合、事業性の観点から積極的ではない。			△～○ 基本的にはサービス購入型で関心は高いものの、P-PFI の活用規模により、参画に係る関心は変わる。			○ 基本的にはサービス購入型で関心は高いものの、民間収益施設についても初期整備費は公共負担であり参画しやすい。			△～○ 基本的には整備費及び管理運営費ともに公共の負担が多く参画しやすいものの、P-PFI の活用規模により、参画に係る関心は変わる。					

※指定管理者制度併用

7.2 想定する整備パターン

(1) 整備パターンの比較検討

前項の結果を踏まえ、PFI 方式による計画地の一体的な全体整備や一部区域の先行供用行う段階的な整備といった複数の整備パターンをもとに比較検討を行いました。(図表 7-4 参照)

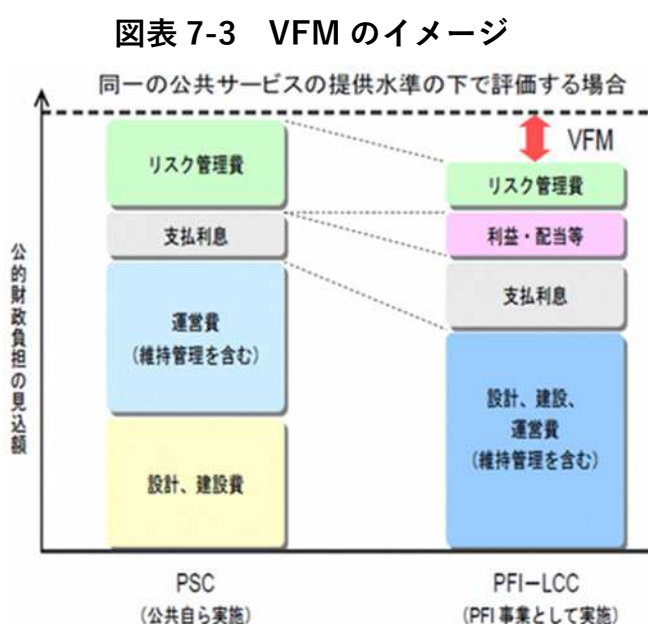
(2) 総合評価

本事業に PFI 方式を導入した場合における定性効果として、VFM^{*}の試算を行った結果、メイン球場のない整備パターンの場合は VFM が確認できず、事業として成立が難しいことがわかりました。一方、メイン球場を含んだ整備パターンでは、一定の VFM が確認できました。加えて、民間事業者の参画意向では、メイン球場の整備を前提として、多くの企業参画に係る意欲があることを確認できました。

また、PFI 方式の導入による定性的効果として、賑わい創出への貢献、財政支出の平準化が期待されます。

以上により、総合評価では、メイン球場の整備を含んだ整備パターンについては、定性および定量効果の両効果が見込まれ、有益であることが分かったことから、PFI (BTO) 方式の導入を基本とすることとしました。

※VFM (Value for Money) とは、一定の支払いに対するサービスの価値を指し、公共がサービスを直接提供するよりも、民間事業者に委ねた方が効率的 (同一水準のサービスをより安く、同一価格でより上質のサービスを提供可能) な度合をいう。



出典：PPP/PFI の推進について (内閣府)

図表 7-4 整備パターン評価結果

金額は千円

ケース	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
段階整備	全体一括		東側区域先行		東側北区域先行		東側北区域先行	全体一括	東側区域先行	東側北区域先行
構造	屋外		屋外		屋外		屋外	ドーム	ドーム	ドーム
規模	2.2万人	1.3万人	2.2万人	1.3万人	2.2万人	1.3万人	メイン球場なし	2.2万人	2.2万人	2.2万人
整備イメージ								左同		
野球場イメージ							無し			
VFM (%)	3.5	3.0	2.8	2.1	1.4	0.1	-6.3	3.8	3.2	3.3
事業期間(年)	設計建設:5年 管理:15年 計20年	設計建設:5年 管理:15年 計20年	設計建設:5年 管理:15年 計20年	設計建設:5年 管理:15年 計20年	設計建設:5年 管理:15年 計20年	設計建設:5年 管理:15年 計20年	設計建設:3年 管理:15年 計18年	設計建設:7年 管理:15年 計22年	設計建設:7年 管理:15年 計22年	設計建設:7年 管理:15年 計22年
賑わい創出への貢献	○ 設計から管理運営まで一体化することによる各業務間の連携による効果が期待される。									
財政支出の平準化	○ サービス対価の支払については、延払いになることから整備費含め財政支出の平準化が可能。									
民間事業者の参画意向	○ 多くの企業が参画意思あり。						△ 将来的なメイン球場整備が前提での関心となる		○ 多くの企業が参画意思あり。	
経済効果(VFM)	○ 財政支出の削減効果あり。						× 財政支出は増加。		○ 財政支出の削減効果あり。	
総合評価	○ 定性および定量効果の両効果が見込まれ、PFI (BTO) 方式の導入は有益と想定される。						× 一部定性効果は見込めるものの、定量効果は見込めないことから、当該事業規模においては PFI の導入効果は見込めないと想定される。		○ 定性および定量効果の両効果が見込まれ、PFI (BTO) 方式の導入は有益と想定される。	

7.3 今後の事業の進め方

本事業に PFI (BTO) 方式を導入した場合、従来の整備方式に比べ定量的・定性的効果が期待できます。

本事業は、事業期間が長期にわたることから、今回の比較検討を踏まえ、今後も、用地取得などの事業の推進とともに引き続き民間事業者との対話、浜松市の役割分担の検討を行い、PFI (BTO) 方式による実現可能で最適な整備パターンを検討していきます。

また、メイン野球場の 3 案から最適な 1 案への絞り込みは、事業者選定の開始までに行います。その他の導入施設は、基本計画をもとに、パブリックコメントでいただいた意見も参考にし、今後、「公園を含む全体的な利活用の構想」を策定する中で検討していきます。なお、検討により、基本計画の一部を見直すことがあります。

図表 7-5 PFI 事業スケジュール (想定)

